

「主体的な学習態度の育成」

新潟県高等学校教育研究会会長

(新潟県立新潟南高等学校長)

羽 田 春 喜

ある調査結果では、多くの教員が自身のスキルアップには自費参加の研修が役立っていると回答していた。また、教育センターの指導主事経験者によると、教員は受講したことを授業で期待するほど活用していなかったとのこと。また、あるベテランの教員によると、日ごろの校内の授業研究や他校教員との学習会には、指導上有益なヒントや手がかりが満載とのこと。

言いたいことは、私的な研修と公的な研修でどちらが効果的かということではなく、研修は教員の意識や意欲が大切ということである。積極的な参加であるかどうか。主体的な参加であるかどうか。研修の目的が明確であるかどうか。求められるのは、研修で習得したこと、吸収したことを授業や指導で実践するという姿勢である。

* * *

現行学習指導要領のねらいは、児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育むことである。また同指導要領では、知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために言語活動を充実することとしている。各学校、各教科では、これに基づいた授業研究や指導研究が行われている。本校でも、教職12年経験者研修の研究授業や初任者研修の公開授業等の中でいろいろと創意工夫がなされている。指導のねらいや目標、評価の観点や規準の項目では、思考力、判断力、表現力の育成、言語活動の充実に重点がおかれている。

その一方で、旧態依然とした授業もまだまだ見受けられる。教員が説明して児童生徒が聞く伝達型の授業である。これは学力の土台となる知識や技能の習得には有効な指導方法である。しかし、時代の要請は知識・技能のインプットから、知識・技能を活用してのアウトプットへ力点が移っている。これからの社会では「教えられたことを教えられた通りに覚える」より、「教えられたことを使って新しい問題を見つけ、解の候補を提案できる」人材が必要とされるそうである。そのために、授業では生徒の主体的な参加や探求型の学習活動がますます重要になってくる。

* * *

グローバル化への対応から教育改革が進行しており、好むと好まざるとにかかわらず、学校教育も大きく変化することになる。すでに大学入試改革も具体的に進んでいる。高校でも新たな学習観、評価観のもと、指導方法や授業の在り方の改善が求められる。そうなると、教員の研修もこれまで以上に主体的な姿勢で臨まなければならないであろう。なぜならば、児童生徒の主体的な学習態度の育成には、教える側の教員の姿勢が大きく関わってくるからである。

そのためにも、高教研の研究活動が大きな役割を果たすことを切に願う。

平成26年度各部会事業報告

1 国 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
13 生 徒 指 導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
14 図 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
15 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
16 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
平成26年度 理事会記録・・・・・・・・・・・・	73
平成26年度 活動から・・・・・・・・・・・・	79
平成26年度 収入支出決算書・・・・・・・・	80
平成26年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・	83
(理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事)	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	86
平成26年度事務局日誌抄・・・・・・・・・・・・	90
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・	91

平成26年度各部会事業報告

1. 国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3. 数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4. 理科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5. 芸術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6. 英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
7. 農業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
8. 工業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
9. 商業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
10. 水産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
11. 家庭科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
12. 保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
13. 生徒指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
14. 図書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
15. 視聴覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
16. 定通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
平成26年度 理事会記録・・・・・・・・・・・・	73
平成26年度 活動から・・・・・・・・・・・・	79
平成26年度 収入支出決算書・・・・・・・・	81
平成26年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・	84
(理事・会計監査委員・委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事)	
平成26年度事務局日誌抄・・・・・・・・・・・・	87
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・	88

国語部会

1 運営委員会・代議員会等

(1) 第1回

期 日 平成26年7月28日(月)

会 場 県立高田北城高等学校

内 容 年度事業の検討

参加者 運営委員会 11名

代議員会 16名

議 題

- 1 全国連関連の事業計画報告
- 2 平成25年度事業報告および決算報告
- 3 平成26年度事業計画および予算案
- 4 全県研究協議会の実施計画検討
- 5 その他

(2) 第2回

期 日 平成27年2月6日(金)

会 場 高陽荘

内 容 年度事業の検討

議 題

- 1 平成26年度事業報告および決算報告
- 2 平成27年度事業計画および予算案
- 3 全県研究協議会の概要
- 4 その他

2 国語部会全県研究協議会

期 日 平成26年10月24日(金)

会 場 長岡大手高等学校 済美会館

内 容 研究発表・実践発表

研究協議 講演

研究発表①

「小説『檸檬』を題材とした学び合い学習」

発表者 佐渡高等学校教諭

細川 美樹

実践発表②

「生徒が主体的に取り組む古典授業の工夫」

— 『奥の細道』朗読CDを作る—

発表者 堀之内高等学校教諭

加藤 裕美子

講 演 「大学受験のための国語力」

講 師 早稲田大学総合科学学術院教授

石原 千秋

研究協議

(1) 講 評

(2) 「思考力・判断力・表現力の育成を
目指した授業改善について」

参加者 70名

指導・助言

県立教育センター

指導主事 山本 寛 様

3 地区研究会

今年度は、実施していない。

4 刊行物

『国語研究 第61集』



全県研究協議会

地理歴史・公民部会

1. 総会・企画委員会

期 日 平成26年7月4日(金)

会 場 新潟市万代市民会館

議 事

- (1)平成26年度役員改選
- (2)平成25年度事業報告・決算報告
- (3)平成26年度事業計画案・予算案

実践報告

「思考力・判断力・表現力等の育成を目指す授業実践」

安塚高等学校教諭 関谷 明典

糸魚川高等学校教諭 花ヶ前 薫

巻高等学校教諭 小竹 博昭

基調講演

「グローバル化時代の歴史教育」

講師 国立教育政策研究所

教育課程調査官 村瀬 正幸 様

参加者 34名

2. 地理研究会

期 日 平成26年8月7日(木)

～8日(金)

会 場 高陽荘他

講 演

「頸城丘陵における地域振興」

講師 公益財団法人 雪だるま財団

小林美佐子 様

巡 検

保倉川(景観見学)～あさひの里 庄屋の家
～越後松之山「森の学校」キョロロ・美人林(自由散策)～昼食～安塚地内施設見学～虫川の大杉

特別講師 花ヶ前盛明 様

参加者 19名

3. 合同研究会

期 日 平成26年8月22日(金)

会 場 ハードオフエコスタジアム

実践報告

「多様な生徒の関心・意欲を引き出す授業実践」

長岡明德高等学校教諭 石平 伸一

八海高等学校教諭

鈴木 俊

西新発田高等学校教諭

中村 智美

荒川高等学校教諭

高岡 晶子

加茂農林高等学校教諭

加藤 歩

参加者 27名

4. 地理・歴史研究会

期 日 平成26年11月14日(金)

会 場 村上中等教育学校

公開授業

(地理)

村上中等教育学校教諭 佐藤 大介

「クラス全体の地理的思考力・判断力・表現力の向上を目指した授業～大学入試センター試験問題のグループ討議、発表を通して～」

(日本史)

村上中等教育学校教諭 高見 由光

「歴史の説明～琉球の江戸上り～」

(世界史)

村上中等教育学校教諭 鈴木 健一

「映画『リンカーン』から考えるアメリカの政治体制と憲法修正第13条をめぐる状況」

助言者 新潟大学教育学部教授

宮菌 衛 様

上越教育大学教授

志村 喬 様

新潟大学教育学部准教授

小林 繁子 様

参加者 35名

5. 研究成果の刊行

『地理歴史・公民研究』第53集の刊行



(写真) 8月22日合同研究会 ハードオフエコスタジアム

数学部会

1. 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 平成26年6月27日(金)

場 所 新潟会館

講 師 新潟大学理学部数学科准教授
鈴木 有祐 様

講 演 「私と離散数学教育」

研究発表

「新潟大学入試問題の分析について」

県立新津高等学校教諭 金澤 光則

参加者 76名

(2) 全県研究協議会

期 日 平成26年10月3日(金)

場 所 済美会館(長岡大手高校)

講 師 作家・プログラマー
結城 浩 様

講 演 「学ぶ喜び、伝える喜び」

研究発表

「実数条件と正像法・逆像法」

県立津南中等教育学校教諭 伊佐 友希

参加者 63名



2. 地区研究会

期 日 平成26年12月2日(火)

場 所 ソフィアセンター(柏崎市立図書館)

講 師 文部科学省初等中等教育局視学官
長尾 篤志 様

講 演 「改めて数学的活動の充実を考える」

研究発表

「指導者用デジタル教材を使った数学I授業の試み」

県立久比岐高等学校教諭 高見 英親

参加者 64名

3. 会議

期 日 平成26年6月27日(金)

場 所 新潟会館

議 題 (1)平成25年度事業・決算報告
(2)平成26年度事業・予算案審議

出席者 76名

4. 広報・研究成果の刊行

(1)平成26年度数学部会会員名簿の発行

(2)「数学教育研究集録」第53号の刊行

理科部会

1 役員会

(1) 第1回役員会

- 1) 期 日 平成26年7月9日(水)
- 2) 会 場 長岡造形大学
- 3) 参加者 28名
- 4) 講演 「里地里山と環境保全」
長岡造形大学
教授 上野 裕治 様
- 5) 施設見学 学内ビオトープにて
絶滅危惧種モリアオガエルの卵など
を見学
- 6) 議 題 H25 事業報告 決算報告
H26 事業計画 予算案
役員改選
その他
(理科の授業改善研究委員会他)



(2) 第2回役員会

- 1) 期 日 平成27年度2月17日(火)
- 2) 会 場 新潟県立植物園
- 3) 参加者 23名
- 4) 研修会 「新潟県立植物園について」
新潟県立植物園 林 様
- 5) 施設見学 アザレア展
- 6) 議 題 H26 事業報告 決算報告
H27 事業計画
その他
(理科の授業改善研究委員会他)

2 研究会

(1) 物理教育研究会

- 1) 期 日 平成27年2月2日(月)
- 2) 会 場 新潟明訓高等学校
- 3) 参加者 20名
- 4) 研究発表
「アクティブラーニングに関する形式的評価の有効性」 加茂暁星高等学校 坂田 洋史
「教員2年目を振り返って」
巻高等学校 樋口 武人
- 5) 研究協議
「大学入試センター試験の問題についてと各校の状況」
- 6) 授業参観 1年 物理基礎
2年 物理
- 7) 講 演
「小型心拍センサ” my beat” の開発と、開発に必要なスキル」
ユニオンツール株式会社 製品開発統括部 開発第1グループ 課長 篠崎 亮 様

(2) 化学教育研究会

- 1) 期 日 平成26年12月10日(木)
- 2) 会 場 長岡高等学校 栖風会館
- 3) 参加者 19名
- 4) 研究発表
「身近な酸化還元反応」
村上中等教育学校 尾崎 巧
「パワーポイントによる授業の実践報告」 新潟翠
江高等学校 中川 千夏子
「柏崎高校のSSHについて」
柏崎高等学校 井部 利光
- 5) 講 演
「長岡発の『低炭素社会』実現に向けた研究について」長岡技術科学大学メタン高度利用技術研究センター 教授 竹中 克彦 様
- 6) 授業参観
理数科2年サイエンスコース

(3) 生物教育研究会

- 1) 期 日 平成26年10月29日(水)
- 2) 会 場 高田商業高等学校
- 3) 参加者 20名
- 4) 研究発表

「位相差顕微鏡による原形質流動の観察」

新潟中央高等学校 佐藤 政雄

「身近な鳴く動物カルタ」

吉田高等学校 本間 巖

「生態系を学べるサイエンスカードゲーム『ばいおーむ』」

新潟翠江高等学校 土屋 英夫

「授業をインタラクティブにする学習デザイン」

加茂暁星高等学校 坂田 洋史

5) 講演

「哺乳類の生態と種の保全～現代の哺乳類における異変～気候変動で変わるイタチ科の獣毛」青海町「きらら自然の会」会長 環境省希少動植物種保存推進員 日本哺乳類学会員 野紫木 洋 様



第2部 講演：「マグマと海底火山：海から大陸ができる話」独立行政法人 海洋開発研究機構 (JAMSTEC) 海洋掘削科学研究開発センター マントル・島弧掘削研究グループグループリーダー 田村 芳彦 様



まちなかキャンパス長岡



長岡市立科学博物館



(4) 地学教育研究会

- 1) 期 日 平成26年10月2日(木)
- 2) 会 場 第1部 長岡市立科学博物館
第2部 まちなかキャンパス長岡
- 3) 参加者 12名

4) 第1部「長岡市立科学博物館見学」

案内 長岡市立科学博物館地学研究室 総括主査 加藤 正明 様

芸術部会

1 総会・研究協議会

期 日 : 平成 26 年 6 月 17 日 (火)

13 : 00 ~ 16 : 40

会 場 : 新潟県立新潟翠江高等学校

議 事

ア 各科研修会について

イ 各科当面の課題について

(1) 公開授業及び実践発表 (13 : 00 ~ 14 : 30)

<音楽>視聴覚教室・・・実践発表

佐藤 瑞枝 教諭 (豊栄高等学校)

「鑑賞活動」

<美術>社会科教室・・・実践発表

田中 幸男 教諭 (長岡明德高等学校)

「立体造形」寄せ木のエッグシェーカー／

プラスチックのペーパーウェイト

<書道>多目的教室・・・公開授業

加藤 亜希子 教諭 (新潟翠江高等学校) 「刻

字」

(2) 研究協議 (14 : 45 ~ 15 : 00)

公開授業及び実践発表についての指導講評

県立教育センター 山下幸治 指導主事

(3) 総会① (15 : 00 ~ 15 : 40)

ア 開会挨拶

芸術部会部長

塩沢商工高等学校長 坂下 忠士

イ 当番校挨拶

芸術部会副部長

新潟翠江高等学校教頭 小堺さとみ

ウ 議 事

- ・平成 25 年度事業報告
- ・平成 25 年度決算報告
- ・平成 25 年度特別会計報告
- ・平成 26 年度役員案
- ・平成 26 年度事業計画案
- ・平成 26 年度予算案
- ・平成 27 年度当番校について

エ 連 絡

- ・総会・各科研修会の役割分担のお願い
- ・特別会計の集金についてお願い
- ・その他

(3) 分科会 (15 : 50 ~ 16 : 20)

<音楽・視聴覚教室>

<美術・社会科教室>

<書道・多目的教室>

(4) 総会② (16 : 30 ~ 16 : 40)

ア 分科会報告

イ 閉会挨拶

芸術部会副部長

小千谷高等学校長 風 巻 洋



6月17日 総会 (於:新潟翠江高校)

2 各科研修会

■音楽科研修会

期 日 平成 26 年 11 月 25 日 (火)

会 場 東京学館新潟高等学校

内 容 公開授業

研究主題 「グループ活動としての表現」

題材名 「サザンオールスターズの楽曲を少人数グループでアンサンブルしよう」

授業者 東京学館新潟高等学校

村山 文隆 教諭

参加者 16名

本時の授業は「グループ活動を通しての表現」を主題として行った。生徒は1年生音楽選択者29名であった。

本時の学習指導は10時間分の中の9時目であり、「グループごとに、お互いに聞きあいながら、積極的に演奏発表する」という目標設定のもと、すぐに7グループに分かれて練習に入った。

村山教諭が「サザンオールスターズ」の曲を題材として設定されたのは、彼らが日本を代表するグループで、音楽的に内容のある作品を数多く送り出していること、また、生徒の親世代にも多数のファン

がいるため、生徒自身が身近に感じる事ができることからこのことである。

生徒は、はじめに、サザンオールスターズのコンサートの様子を視聴することによって、学習する候補曲を中心に、彼らの特徴や雰囲気を感受し、文化的・歴史的演奏者の表現の特徴（メロディ、ベース、リズム、コーラス等で構成されたバンド曲の仕組み、また、バラードやアップテンポ等の楽曲の違いや、サンバやスカなどのリズムパターンの面白さ）を理解し、味わう。

その後、アンサンブルするグループを編成し、「いとしのエリー」「真夏の果実」「TSUNAMI」「涙のキッス」「愛の言霊」「みんなのうた」の6曲の中から実際に演奏する曲を決める。

村山教諭は、生徒の習熟度に差があるため、演奏しやすいように楽譜を工夫したり、個別に丁寧に指導したり、本時までの間に中間発表の機会を設けたりして、生徒の興味や意欲が増すように、様々な配慮をされていた。

10分間練習の後、各チームの発表が行われた。緊張しながらも、少し誇らしげに演奏する生徒の姿があった。グループの構成人数、楽器の選択によって、同じ曲でも様々な、趣向を凝らした演奏が繰り広げられた。

また、生徒自体に他者の演奏を素直に聴く態度ができており、生徒の仲が良く、互いに認め合っている様子が見えられた。村山教諭の生徒に対する日ごりのアプローチが細やかであることが感じられた。村山教諭の言葉によれば「生徒は生徒の演奏に対して、寛容である」とのことである。

次の授業展開は、自分たちの発表を視聴することにより、客観的に演奏を聴き、表現の方法・技術について、感じ取ることを主題として予定している。鑑賞を通して、良い点や工夫するところを考え、今後の表現活動に十分に生かすことができ、それが生徒の豊かな音楽的経験になると考える。

合評会

- 学習プリント「ひとこと講評用紙」「サザンオールスターズ」について大変工夫されていた。
- 曲の終わりの切り方を、もう少し工夫させたらいいと思う。
- 生徒が努力した部分をもう少し評価したらいいと思う。

最後に南雲副部長より、グループ活動について以下のお話をいただいた。

「20年程前、キーボード等を使用し、クラシック

曲を含めた課題曲（5曲ほど）選定して、実施した授業経験がある。授業後、生徒にその日の練習成果・反省・課題について日誌として記録を残し、観点別評価に活かした。また、中間発表会、成績発表会を実施し、生徒同士で評価した。成績優秀者は放課後を利用し、全校発表を行い音楽選択者以外にも披露した。今後は様々な観点から評価を行わなければならないと思う」。

研究協議

◇今後の芸術部会音楽研究会について◇

音楽の教員減に伴い、従来通りの「公開授業」は難しくなっている。新潟市内のホールなどの見学や、個々のシラバスを持ち寄っての研究会などと、魅力あるもの企画していかなければならない。

◇全日音研の加入の在り方について◇

今後検討が必要である。



11月25日「アンサンブル指導の様子」
(於：東京学館新潟高等学校)



「グループ発表の様子」

■美術・工芸科研修会

期 日 平成 26 年 8 月 21 日 (木)、22 (金)
会 場 長岡造形大学
内 容 実技講習会
講 師 長岡造形大学視覚デザイン学科長

松本 明彦 氏

参加者 《1 日目 14 名》、《2 日目 11 名》

研修内容

《1 日目》

○デジタル一眼レフカメラの取扱方や構え方

(今回の講座では、絞り優先モードを中心にご指導
いただいた。)

○広角～標準～望遠といったレンズの特徴

(描写角度や被写体深度の違いなど)

○絞りや I S O 感度とシャッタースピードの関係

○画面構成や構図の取り方

(やっつけられない構図など)

○モデルの撮影

(コミュニケーションの取り方など)

○講評

○質疑応答

《2 日目》

○ポートレートの補正・加工技術の説明

(トリミング・肌色の補正・不必要な描写の削除や
修正など)

○ポートレートの補正作業

○講評

○質疑応答

8 月 21 日、22 日の両日、長岡造形大学において、
美術・工芸科目の研修会が行われた。

今回の研修は『デジタル一眼レフカメラ基礎講座』
と題して、デジタル一眼レフカメラの特徴や写真に
関する基礎知識と報道写真ではなく、美術・デザイン
の作品として発表する場合に必要な考え方や撮影
方法などと撮影後に行う写真の補正などの加工技術
を長岡造形大学教授 松本明彦先生よりご指導いた
だいた。

私たちが日頃生徒に画面の構成などの指導をする
ときに主題と副題の関係や、安定した構図、奥行き
の表現が大切であるなどと言っているが、実際にカ
メラのファインダーをのぞくと主題ばかりに目が行
ってしまい、レフ板の端や、画面に関係のないもの
が写っていて、細部まで気を使うことの難しさを改め
て実感した。また、人物の撮影時にモデルにあと一
歩近づくことができず、良い表情を引き出すための
声かけもままならなかった。

「物を撮影する場合は気を遣っただけ(100%なら
100%)作品として反映されるが、人を撮影する場合は
モデルとのコミュニケーションがうまくいけば、そ
れ以上の表情を返してもらえる。」

「100%の写真は加工によって 120%にすることは
できても、60%の写真はどんなに加工しても 70%の
ものにしかならない」など私たちが今後生徒を指導す
るうえで大変参考になる助言をいただいた。

また、作品の加工については、皆、慣れないコン
ピュータ操作に難儀していたが、画面の中の不必要
な物を消し、色彩の補正などを行うことで、満足の
いく作品になり、参加者はそれぞれ達成感を味わっ
たと思う。とても有意義な研修であった。



8 月 21、22 日「デジタル一眼レフカメラ基礎講座」
(於：長岡造形大学)



ポートレートの補正・加工技術の説明・補正作業

■書道科研修会

期 日 平成26年12月8日(月)
会 場 長岡市地域交流センター
まちなかキャンパス302会議室
内 容 授業研究会
参加者 19名

授業研究会

【A 漢字仮名交じりの書】

進行：藤原香代子 教諭(村松高等学校)
記録：柳 美和 教諭(栃尾高等学校)

(実践発表内容)

1 各学校での授業展開や位置づけなどの説明と研究協議

①題材(語句)の選び方、構成や表現について、用具・用材について、評価など、各学校の生徒の実態に合わせた授業展開の発表。

②授業でうまくいったことや失敗したこと、大事にしていることなどについて質疑応答。

2 事前に寄せられた疑問点についての研究協議

①指導法について

Q. 指導者の文字と生徒の作品が似てしまうことはあるか?

A. 書いて見せることはあるが、手本とさせないですぐに捨てるなど配慮している。

②鑑賞について

Q. 相互鑑賞、批評を充実させるにはどうすればよいか?

A. 生徒の語彙が乏しいため、批評することばを示してやり、批評の仕方から教える。

3 まとめ

8名の実践発表が中心となり、研究協議の時間があまり取れなかったが、各学校のさまざまな授業展開や工夫を知ることができた。この研究会で得たことを踏まえ、生徒の実態に合わせた授業展開をどうしていくかが今後の課題。

【B 篆書・篆刻】

進行：金子達雄 教諭(三条東高等学校)
記録：阿部理恵 教諭(新潟江南高等学校)

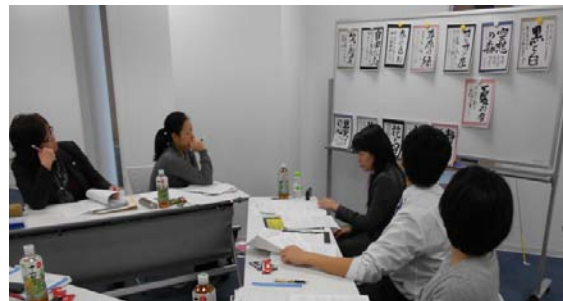
それぞれの学校の実践発表のあと、生徒の作品を鑑賞し、篆刻について、以下の観点で話し合った。

- ・白文にするか朱文にするか
- ・布字の方法
- ・文字数について

- ・小篆にするか印章にするか
- ・シラバスでの篆刻の位置づけ(時期など)

教育課程上に書道Ⅱがある学校では、十分な篆刻の指導ができるが、書道Ⅰだけしかない学校は、いかに時間を短縮してできるかの工夫が必要である。最近の書道Ⅰの教科書は、マジック転写が紹介されているなど、従来とは違う布字の方法をとることも一考である。

苦勞しながらも、各学校の実態にあった篆刻の授業が行われていることを確認した。



12月8日「漢字仮名交じりの書」授業研究会の様子
(於：長岡地域交流センター)

【C：行書の学習】

進行：成田年樹 教諭(十日町高等学校)
記録：小川貴史 教諭(新潟高等学校)

授業研究「行書の学習」は、当日参加者4名。少人数ならではの意見交換がしやすい雰囲気の中で行われた。

高谷広子教諭(長岡商業高等学校)は、書道Ⅰの授業設定で、蘭亭序や屏風土台といった行書古典の文字について鑑賞、臨書を行わせることで、筆の連続性や抑揚という、楷書との違いを理解させる。ワークシートも用い丹念に記載させていくことで、行書古典の特徴や時代背景、筆者の人となりについても深めていく学習方法は、授業を飽きさせない配慮と感じられた。

加藤亜希子教諭(新潟翠江高等学校)は、書道Ⅱにおける「行草書の古典から創作への展開」という題材で、主として宋代の書を取り上げた試み。宋の四大家の書を鑑賞し、興味をもった古典を1つ選ばせたのちに半紙臨書へと進ませる。臨書から創作へ進むには、生徒にとっては技術上大きな壁が存在すると思うが、ここで工夫されているのは、「臨書した古典の文字を含んだ熟語」を創作の素材としている点である。初心者による創作には、そのような「てががり」が必要であるし、そのような生徒の状況に上手く沿わせていく配慮が感じられた。

小川貴史教諭(新潟高等学校)は、蘭亭序の学習(書道Ⅰ)について発表した。指導方法として、楷

書との相違について説明したのち、筆の速度を上げ、生徒各自に分析させ、沢山の枚数を揮毫させることで、「自ら気付かせていくこと」に主眼を置いている。また、DVD等の視聴覚教材を用い、他教科との連携（中国史や漢文との兼ね合い）について重要視する。

- ① 蘭亭序中の四字を半紙にまとめること
- ② 蘭亭序の原寸大の臨書

この2つを課題とする。

成田年樹教諭（十日町高等学校）は、書道Ⅰにおける「行書への興味付けから技術習得、そして創作へ」というもので、初めての行書に対して大いに誘発される内容だった。蘭亭序中の1文字を、半紙に大きく臨書させていくことで、行書特有の気脈や毛筆の性能、抑揚などについて、体で覚えていく方法。それと同時に、指導者側は執筆法について論理的に細部にわたり説明し、理解度を上げる。その後、2字から4字へと文字数を増やしてまとめさせ、蘭亭序の複製技術「双鉤 填墨」を体験させる。その後、日本の行書の古典、風信帖の鑑賞から灌頂記の臨書へと進み、臨書対象の難易度を徐々にあげていく。さらに特徴的な中国の古典、枯樹賦、温泉銘の臨書へと進み、大胆な筆の開閉について学ぶ。行書の幅広さと運筆のバリエーションについて、自己の成長を楽しみながら学べる指導構成になっており、大変参考になった。

また、この研究会では、実際に授業で使用している毛筆を各自持参し、その場で範書を行った。普段我々は、他の指導者が揮毫する姿を見ることはまずあり得ない。実際に生徒に行書を指導するつもりで、筆を執っていただいた。貴重な機会だったと思う。



「行書の学習」授業研究会の様子

実践例一覧

【漢字仮名交じりの書】

書道Ⅰ「手紙としての書表現」
書道Ⅲ「漢字仮名交じり文の作品構成について」
書道Ⅲ「通信制の書道指導充実を目指したレポート制作」
書道Ⅲ「紙で歌を表現する」
書道Ⅱ「近代詩文書の制作」
書道Ⅱ「文化祭作品制作」
書道Ⅰ「通信制教育における指導」
書道Ⅱ「ことば探しと書表現 ～素材を見出す判断力と作品構成力を育成する～」
書道Ⅱ「現代文教科書を題材にして」
書道Ⅰ「自分の言葉を書く 書写から書への創作へ」

【篆書・篆刻】

書道Ⅰ「Try 篆刻を楽しむ」
書道Ⅱ「篆刻の学習」
書道Ⅱ「篆書から篆刻へ」
書道Ⅰ「泰山刻石」の学習

【行書の学習】

書道Ⅰ「蘭亭序の指導について」
書道Ⅱ「行草書の古典から創作への展開（宋代の書をもとに）」
書道Ⅲ「灌頂記」の臨書学習
書道Ⅰ「蘭亭序・屏風土代」行書の導入
書道Ⅰ「行書への興味付けから技術習得 そして創作へ」

3 刊行物

平成26年度高教研芸術部会報告 120部

英語部会

1 夏季研究会

期 日 8月11日(木)
場 所 デンカビッグスワンスタジアム会議室
参 加 者 90名
日 程

(1) 高等学校実践発表
笹川 孝志
(県立津南中等教育学校)
「勤務校での取り組み〜プロフェッショナルズ
から学んだことの追実践」

(2) 海外研修報告
佐久間 純子
(県立巻高等学校)
「To be a reflective teacher」

(3) ワークショップ
input と output の意味と意義
講師 内田 浩樹 先生
国際教養大学 専門職大学院 教授

2 上越英語教育研究会

期 日 9月26日(金)
場 所 久比岐高校
講 師 東京学芸大学 教授 高山 芳樹
先生

3 全県英語科研究会

期 日 10月31日(金)
場 所 県立新発田南高校
参 加 者 160名
日 程

- (1) 高教研英語部会総会
- (2) 分科会
第一分科会 「4技能の指導」
大滝友紀恵 (糸魚川高校)
第二分科会 「動機付け・学習支援」
高橋 有香 (新潟中央高校)
第三分科会 「授業改善の工夫」
和田 正太 (阿賀黎明高校)

- (3) 分科会報告
- (4) 指導講評 高等学校教育課
石橋 弘光 指導主事
- (5) 公開授業 3クラス
(普通科2 工業科1)

(6) 講演
講師 一般財団法人
実用英語推進機構 代表理事
東進ハイスクール・東進ビジネススクール講師
安河内 哲也 先生
演題 「入試4技能時代の英語指導」

4 高校生スピーチコンテスト(県教委と共催)

参 加 者 65名
予選(10/11)
会 場 柏崎エネルギーホール(上・中越)
県立生涯学習センター
(下越・佐渡)

本選(11/15)
会 場 県立生涯学習センター

5 英語授業力セミナー

期 日 3月14日(土)
場 所 県立教育センター
参 加 者 120名
講 師

文部科学省初等中等局視学官
太田 光春 先生

演 題
「求められる英語授業づくり〜
自立した学習者を育てるために」

中学校実践発表
大岩樹生(新潟市立白新中学校)
高等学校実践発表
松井徹朗(北海道立旭川北高校)

6 研究成果の刊行

高教研英語部会誌 第59号の刊行
(内容) 夏季研修会報告・全県英語科研究会
報告

農 業 部 会

平成26年度 新潟県高等学校
農業教育課題研究会 報告

当番校 新潟県立高田農業高等学校

目 的

新しい時代に対応した農業教育の実現に向けて、
本県の農業及び農業教育が当面する課題について
研究協議を行い、教職員の資質・能力の向上と農
業・農業教育の発展・振興に資する。

大会スローガン

「日本の農業を拓く農業教育を創造しよう！」

期 日 平成26年8月22日（金）

会 場 じょいあす新潟会館

参加者 59名

日程及び次第

10:00～10:30	受 付
10:30～11:40	開会式
11:40～12:30	昼 食
12:30～14:00	講演会
14:15～16:05	分科会
16:20～16:50	全体会
16:50～17:00	閉会式

講演会

演題 「バイオマスエネルギーを利用した農業シス
テムと地域づくり」

講師 (株) 開成 代表取締役 遠山 忠広 様
これからの農業高校で取り組める新たな分野と
して、講師の特色ある取り組みの紹介をいただいた。
各地域の特色を今まで以上に理解し、地域から発
信できる担い手が農業高校で求められている。

研究協議

第一分科会

「農業の魅力伝える科目『農業と環境』のあ
り方」

指導助言	新発田農業高校長	志田 重道
発 表	長岡農業高校	櫻 井 修
司 会	十日町総合高校	高橋 正和
記 録	加茂農林高校	安田 吉則

第二分科会

「『実験・実習10分の5以上』における実験・
実習と座学との融合・統合」

指導助言	長岡農業高校長	大橋 忠義
発 表	加茂農林高校	行木 智子
司 会	村上桜ヶ丘高校	菅谷 耕司
記 録	新発田農業高校	高橋 康一

第三分科会

「農業教育を活かした農業系大学への進学指導」

指導助言	高田農業高校	高橋 哲也
発 表	新発田農業高校	石山 勝教
司 会	柏崎総合高校	佐々木 寛
記 録	長岡農業高校	松井 智之

魅力ある農業教育を目指すためには、地域だけで
なくその地域から発展する事業との関連は必要不可
欠である。しかし身近ではまだまだ我々が知らない
新しい事業に取り組んでおり、それらの情報を得る
試みも、農業教育に取り入れていかなければなら
ない。

その根底には、学校教育での自立心の構築、農業
教育での一人一人の主体性、農業に関する職業の將
来性を見いだすことが大切であると、講演会、各分
科会で討論された。

学校・地域だけでなく事業者との関連をさらに深
め、新しい農業の可能性を発信できる取り組みが、
今後期待される研究大会であった。

農業教育研究大会 報告

当番校 新潟県立長岡農業高等学校

1 はじめに

今回の課題研究会では、県内の農業教員に対して
「電子端末（タブレット）」を題材に、活用方法と指
導法について講習会を行った。



2 テーマ

農業科目における電子端末(タブレット)の活用
法と指導法

3 目 的

電子端末を利用した教材研究や授業の展開手法について学び、理解を深める

4 日時

平成26年10月15日(水)

13時から16時30分まで

5 会場

新潟県立教育センター

6 参加者

・部会長

加茂農林高等学校 竹内 公英

・当番校長

長岡農業高等学校 大橋 忠義

・農業教職員

巻総合高等学校 大崎 隆

新発田農業高等学校 高橋 康一

新発田農業高等学校 山本 誠

新発田農業高等学校 井澤 美樹

村上桜ヶ丘高等学校 近藤 和之

加茂農林高等学校 岡田 雅樹

加茂農林高等学校 浅田 善弘

加茂農林高等学校 行木 智子

加茂農林高等学校 湯田 健太郎

柏崎総合高等学校 猪股 守博

佐渡総合高等学校 羽二生 善國

高田農業高等学校 樺澤 直博

高田農業高等学校 石井 清尚

高田農業高等学校 山川 敏幸

高田農業高等学校 池亀 元善

長岡農業高等学校 松井 智之

長岡農業高等学校 鈴木 英明

長岡農業高等学校 笹川 泰子

長岡農業高等学校 若杉 祥彰

長岡農業高等学校 渡部 一博

長岡農業高等学校 山崎 勇

長岡農業高等学校 西海土 寿洋

長岡農業高等学校 大矢 由美

7 内容

(1) 実技講習『タブレット端末の活用法』について

講師 新潟県立教育センター

教育支援課 教育企画班

指導主事 加藤 伸 泰 様

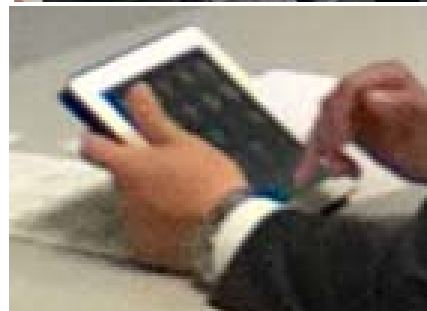
指導主事 石田 清 彦 様

指導主事 山下 幸 治 様

- 1) 第二期教育振興基本計画及び新潟県教育振興基本計画について資料を用いて説明
- 2) タブレットを用いて Ping Pong (スポット ネットワーキング) の実施
- 3) i-pad を用いた活用例とデジタルコンテンツの紹介

(2) 実技演習 タブレットを操作しながらの演習

- 1) Metamojinote の基本操作についてタブレットとスクリーンを用いて説明
- 2) 自己紹介 note の作成と発表



(3) 研究協議

授業における情報機器活用状況について各校代表者が資料を用いて説明

8 参加者の感想

- ・時代の流れに対応する必要もありますが ICT を使うことが目的ではなく“どこで、どのように活用するか”が大切であると感じます。また、学校間で情報を共有する体勢づくりも必要です。
- ・ICT を用いた場面での教諭の授業力がカギとなると思います。新しい授業展開が期待されます。

- ・スクリーンでの説明を聞きながら手元で操作することができ、初めてでも分かりやすくスムーズに演習に参加することができました。このことは実験・実習の場において、生徒たちも同じことを感じてくれるものと思いました。
- ・現場で“即座に調べることができる”、“データを入力することができる”など、活用方法の幅広さを感じました。
- ・パソコン教室が使用できない場面においても持ち運びが容易で、まとめ学習やネット検索ができることは今後の授業展開を構成するにあたり、幅が広がります。
- ・授業で活用するためには、教員研修を実施する必要があると思います。また、予算の問題も解決しなければなりません。今後、活用が期待されるのであれば各学校間での画像等の交換が可能となるようなネットワークがほしいです。
- ・ソフトをマスターする必要性を感じました。



【スクリーンを見ながら操作する様子】

10 おわりに

電子端末を活用した新たな指導法や授業展開方法についてその有効性を感じた方が多かったようです。一方、モラルやセキュリティ、予算や操作技能の習得などを懸念する声も聞かれました。これらの解決策を見いだしながら電子端末の活用により農業教科指導がより一層充実していくことを期待します。最後に業務多忙の中講習いただいた教育センターの皆様と研修会に参加いただいた職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

農業教育課題研究会 報告

当番校 新潟県立新発田農業高等学校

1 テーマ

「国公立大学への進学志望者の進路実現に向けて」

2 目的

農業高校等の教員に研究マインドを持ってもらい、研究に対する情熱を持って生徒に接することで、高校生に探究心・研究心を抱かせ、以て大学への進学志望者の増加につなげる。

3 期日

平成26年12月9日(火)

4 会場

新潟大学 農学部 大会議室他

5 日程

- 12:45~13:00 受付
 - 13:00~13:05 開会式
 - 13:05~13:20 趣旨説明および基調提案
新発田農業高等学校
 - 13:20~14:20 学生実験等の見学
 - 13:20~13:40 植物生産学実験
 - 13:40~14:00 応用生物化学実験
 - 14:00~14:20 農業工学演習
 - 14:30~15:50 講演「農学部の研究紹介と社会人の学位取得について」
 - 14:30~14:50 花の形に関する分子メカニズム及び遺伝子組換えによる花形の改変に関する研究
(中野 優 准教授)
 - 14:50~15:10 食品の二次機能解析研究
(藤村 忍 准教授)
 - 15:10~15:30 野生動物管理に関する研究
(望月 翔太 助教)
 - 15:30~15:50 研究マインドの継続を目指した社会人の学位取得について
(農学部長 新村 末雄 教授)
 - 15:50~16:50 研究協議
 - 16:50~17:00 指導助言
高等学校長協会農業水産部会長
竹内 公英
 - 17:00~ 閉会式 当番校長挨拶
新発田農業高等学校長 志田 重道
- 参加者 19名

内容

(1) 基調提案

新発田農業高等学校進路指導部、山本誠教諭より

県内農業高校の国公立大学合格者数の推移と現状を説明してもらい、その後で農業高校で全国有数の進学率を上げている広島県立西条高校と岐阜県立岐阜農林高校の進学指導の取り組みについて紹介があった。

(2) 学生実験等の見学・講演

見学の前に、新村末雄農学部長より、今回紹介する講演や見学を通して農学部では各学科においてこんなことができるということを各校に持ち帰り、ぜひ生徒に進学することへの関心や夢をもたせてほしい、また生徒に探究心を持たせることにより農業への興味を引きだしてほしいとの話があり、その後、各学科より講演、社会人の学位取得についての説明もいただいた。



講演風景（農学部の研究紹介）

(3) 研究協議

協議に入る前に、各校から今年度の国公立大学受験状況と今までの進学希望者の推移・分析、指導の現状と課題について説明をしていただき、それを踏まえて今後の進学指導についてどのように取り組んでいくべきか協議を行った。各校から以下のような意見があった。

- ・2学年の3学期は、進路指導としては3年0学期という位置づけで受験準備に取り組ませる必要がある。この研究会での協議内容を今後の進路指導に活かしていく必要がある。（総合高校）
- ・入学生の段階ですでに進学希望がない。その後の進路学習において増えるものの進学ガイダンス後には減る状況である。管理職だけでなく職員も一緒に中学校訪問を行い、農業高校からの大学進学の可能性をもっとアピールする必要がある。進学希望者には教育実習生からの進学ガイダンスに参加させ、体験談などを聞くことで関心をもたせる。（農業高校）
- ・毎年、卒業生講話を行い、大学生や社会人の1年生を招いて大学生活や現場の体験を話してもらっている。また2年生全員をインターンシップに

参加させるなど大学や社会との接点を多くもたせることで意識づけさせることも有効ではないか。保護者対象の進路ガイダンスも実施している。（農業高校）



研究協議 風景

- ・進学率を上げるには今より高い学力層の入学生を集めることが大切である。そのためには各校の魅力をつくり、中学生にアピールできるよう実績をつくっていくしかない。（農業高校）
- ・以前は個別で大学を紹介し個別に指導していた。現在は大学進学できるような学力層の生徒が少なく進学まで押し上げられていない。全体的に学習習慣が身につけていない。（農業高校）
- ・生徒の大半が1時間以下の家庭学習であり、進路希望と異なる科目選択生もいて進路に対する目的意識が低い。1年次から進路指導室を活用する工夫も必要である。（総合高校）

(4) 指導助言 加茂農林高等学校校長

竹内 公英 先生

ここ数年、本県農業高校からの国公立大学受験者数が減り、あわせて合格者も少なくなっている。今、農業高校に求められていることは、実習を通して知識・技術を身につけさせることも大切であるが、進路保障について就職だけでなく大学進学が叶えられるような幅広い進路指導体制の充実が県民、中学校、そして保護者から期待されている。幅広い進路保障ができ、農業高校でも大学進学が可能だという安心感や期待が求められていることを理解していただき、そのためにも教員が教育の質を高めるとともに進路指導力をつけ農業高校生が地域からの評判、信頼を活かしながらも進学率を高めることが地域へのアピールにつながる。先生方からも大学に興味を持ち、生徒の意欲を1年生から引きだし、大学を目指す受験生の育成に努め受験者数を増やしてほしい。

(5) 当番校長挨拶 新発田農業高等学校長

志田 重道

各校の現状や課題を踏まえ、様々な意見が交わされた。今回の内容を各校に持ち帰り、進学における進路指導の体制づくりの一助として、今後の取り組みについて具体的な指導計画案を各校で作成し、より充実した進学指導計画を構築し、県内農業高校全体で国公立大学進学率を高められるよう努めてほしい。

おわりに

「国公立大学への進学志望者の進路実現に向けて」をテーマに新潟大学農学部様の協力を得て研究会を実施した。国公立大学進学希望者の指導について各校が抱える課題や現状について情報交換を行うことで、県内の農業高校、農業に関する科目を設置する総合高校から一人でも多くの国公立大学進学者が増える一助となれば幸いである。

工業部会

「機械・電子機械系」見学会・講習会

期 日 平成26年7月3日(木)

会 場 新潟工業短期大学

参加者 19名

今年度の見学会は県内唯一の工業系短期大学である新潟工業短期大学にて開催した。今回は見学会に加え講習会も行った。

講習会では、小宮孝司様(新潟工業短期大学教授)より「エンジンの燃費と環境対応～次の10年を予測する」と題したご講演をしていただき、自動車におけるCO₂削減や燃費向上に関わる最新技術動向、加えてパワーソースにおける各自動車メーカーの研究動向と今後の開発展望について説明していただいた。

見学会では施設見学に加え、授業見学も行った。授業見学の際は、学校独自で作成している実習手引書の作成過程に関する話題や実習全体の指導コンセプトなどについて、各授業を担当されている教職員から説明していただいた。



技術の高度化が加速している自動車産業界の考えを推察する貴重な機会となった。

講習会(新潟工業短期大学小宮孝司教授より)

(記・新潟工業高等学校)

機械科 藤澤 満

「電気・電子系」研究会・見学会

期 日 平成26年7月25日(金)

会 場 柏崎工業高等学校(研究会)

中越工業株式会社(見学会)

参加者 13名

【研究会】

中越工業株式会社代表取締役 綱島 浩様を講師にお招きし「小水力発電の現状」と題してご講演をいただいた。比較的落差が小さい農業用水路や小河川を利用した小水力電力について、多くの納入実績をご紹介いただいた上で、普及の背景と特徴・可能性・問題点について丁寧な説明をしていただいた。小水力発電は、農作物を野生動物から守るために設置する電気柵・各種照明・砂防ダムの監視カメラ等の電源として利用されているとのことであった。

【見学会】

午後から会場を中越工業株式会社様に移し、クロスフロー水車を用いた実験施設を見学させていただきました。小水力発電は設置場所や条件により仕様が一つとして同じ物がなく、受注生産となるために納入前にこのような実機試験がかなり重要であることを教えていただいた。



小水力発電水車実験施設見学

最後に、本事業に全面的にご協力いただいた代表取締役の綱島 浩様をはじめ中越工業株式会社の皆様へ深く感謝申し上げます。

(記・柏崎工業高等学校 電気科 三本正人)

「工業化学系」研究会

期 日 平成26年8月22日(金)

会 場 新潟工業高等学校 北斗会館

参加者 12名

(1) 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門

県大会の同点順位の決め方や、北信越大会の競技方法および審査基準について協議した。また、全国大会研究委員から今後の大会運営について、審査基準、器具類の使用法、安全面等をブロック大会で統一するため、各県で検討することが必要との報告があった。

(2) 木炭アルミ自動車競技大会

本年度の当番校および競技規則の改定案が承認された。また、今後の大会の方向性について、マグネシウム電池等の新しい電池部門を取り入れたい等の要望が出された。

(3) 日本工業化学教育研究会新潟大会について

平成30年度に開催が予定されている上記大会について、今後の進め方を確認した。



「工業化学系」見学会

期 日 平成26年8月22日(金)

会 場 ナミックス株式会社テクノコア

参加者 13名

ナミックス(株)はコンピュータの基板に取り付ける電子部品の高機能接着剤を生産しており、見学した施設はその研究施設にあたる。

最初に会社概略、生産品の説明があり、次に施設内の見学を粘度試験、製品検査、耐光性試験、食堂、屋上の順に行った。社内機密保持のため、見学は廊下より窓越しにしかできず、詳細な作業を見ることができなかったが、接着剤としての絶縁材料、導電材料の開発、品質管理および販売シェアの確立等がよく分かった。また、この研究施設は敷地を含めても広大であり、研究室、事務室の建物は有名な建築家が設計し、権威ある賞を受賞した実績もあり、純白の円形をした外観や曲線を活かした内装がかなり斬新なもので、一見の価値があり、大変充実した内

容であった。



(記・新潟工業高等学校 工業化学科 一本鎗 裕)

「建築・土木系」研究会・見学会

1 研究会

期 日 平成26年10月7, 8日(火、水)

会 場 県立上越総合技術高等学校

参加者 24名

(1) 建築系講演会

「歴史的にみた建築構法の変遷と建築教育への反映」

講師 長岡造形大学教授 平山育男 様

在来軸組工法における基礎の歴史や名称の由来について、また、土木遺産としての配水塔の歴史に関する講演内容であり、今後の生徒への指導に非常に参考になる内容であった。



建築系講演会

(2) 土木系

(3) 講演会

「地理院地図と地理院マップシート活用実習」

講師 国土地理院 北陸地方測量部

防災情報管理官 仲井 博之 様

国土地理院が無償で公開している地理院地図を活用した実習形式の講演を行っていただいた。普段使っている Google マップとは違い、地理院地図では国土面積や距離の計算ができ、また地図上にマッピングや情報を追加書き込むことが出来ることを教えていただいた。また、この地理院地図では Google Earth との連携もとることができるため、航空写真と複合することで様々な活用が出来ることがわかった。これらをうまく使うことで GPS や GIS など、今後の授業での活用の幅が広がる可能性を示唆する講演を聞くことが出来た。



土木系講演会

(3) 建築系分科会 (参加者 13名)

協議題

- ① 公立化された長岡造形大学の推薦・A0 入試における各校の対策
- ② 就職試験における面接、作文、一般教養の指導方法
- ③ 授業における 3DCAD の活用について

承合事項

- ① 学校設定科目について

以上の内容について、活発な協議が行われた。

(4) 土木系分科会 (参加者 11名)

協議題

- ① 平成 26 年度ものづくりコンテスト新潟県大会と北信越大会について
- ② 平成 27 年度ものづくりコンテスト新潟県大会の運営について
- ③ 各校資格試験の取り組みと受験状況
公務員希望者への指導方法

承合事項

- ① 学校設定科目で承認が得られた教科名と内容について

- ② 今年度の就職状況業種別の内訳

今年度のものづくりコンテスト北信越大会は、本県が当番校であったので、運営の反省と改善について話し合った。今年初めての雨天決行となり、測量部門の今後の雨天対応について話し合った。その他各学校の進路や学校設定科目について情報交換をし、現状の問題点や対応について意見を交換した。

2 見学会

(1) 建築系見学会

期 日 平成 26 年 10 月 7 日 (火)

会 場 北陸新幹線上越妙高駅

新築工事現場

参加者 21名



「上越妙高駅」

北信越地域の新たな玄関口として平成 27 年 3 月 14 日に開業予定である北陸新幹線「上越妙高駅」の新築工事現場見学会を実施した。工事はすでに終了し、各種検査へと移行するタイミングでの見学会であった。駅西側は「大自然との対峙」をテーマとし、妙高連山を望む「光のテラス」や、隣地の釜蓋遺跡へと誘う「さくら回廊」が配置されている。また、駅東側は「都市との対峙」をテーマとし、全長 170m を超える日本最大の「駅雁木」や、地元の杉材を用いた木組みのドーム天井を持つ「もてなしと交流のエントランス」が配されている。ドームにはガラスブロックが使用されており、昼間は雪の結晶を、夜間は巨大な灯籠や行灯を思わせるデザインとなっている。地場の建材を積極的に使用し、雪国の人々の暮らしの象徴である雁木をデザインに取り入れるなど、上越を訪れる人々の記憶に残る駅を演出する設計の手法から多くを学ぶことができた有意義な見学会となった。

最後に、ご多用の中、今回の見学会を快く引き受けて下さった上越市企画政策部新幹線・交通政策課の皆様には厚く御礼申し上げます。



「木組みドーム天井」

(2) 土木系見学会

期 日 平成26年10月8日 (木)
 会 場 二級河川鶴川治水ダム建設事業
 参加者 20名



鶴川ダム建設現場見学会の様子

(記・新潟県立上越総合技術高等学校
 建築・デザイン科 小林 哲
 環境土木科 小林 竜也)

商 業 部 会

「ビジネス分野」研究会

- 1 期 日 平成26年11月11日 (火)
- 2 会 場 新潟県立三条商業高等学校
- 3 参 加 9校 16名
- 4 日 程

受 付 9:30～10:00
 開 会 10:00～10:15
 講 演 10:15～11:25
 研究協議 11:35～12:10

新潟県柏崎地域振興局地域整備部ダム建設課に協力していただき、柏崎市にある鶴川ダム建設現場の見学会を行った。前日の天候が不安定であったが、当日は晴れ、見学日和となった。事業所所長である一ノ瀬様よりダムの建設状況、施工技術、施工計画をはじめダムの役割、ロックフィル形式の選定理由など詳細に説明していただいた。現場内を車で移動することで全体を回ることが出来、丁寧でわかりやすい見学会となりえた。特に、ダムの天端から底まで歩かせていただいたことは非常に貴重な体験となった。職員の質問や意見交換を通じて有意義な研修を行うことができた。

概要説明 12:10～12:40

実践発表 13:30～14:00
 企業見学 14:00～15:30
 閉 会 15:30～15:40

5 講 演

演題 「地域経済を考える」

三条信用金庫 常勤理事

地域経済研究所 所長 味田 丈夫 様

講演内容は「地域経済を考える」と題して、世界経済の影響を大きく受け推移していく地域経済的的をあてて講演していただきました。

アベノミクスと金融政策や、為替レートと輸出の推移など日本経済全体の動向を解説していただきました。また、地域経済として特に燕三条地域の特徴



を中心に解説していただきました。他の産地と差別化を図り、製造業の集積地として金属関連を徹底的に特化し、周辺業界も独自に発展しているところや、徹底した分岐を行い、地域内で種々雑多製品、部品の生産を行ったり取引先を分岐させているところに強さがあるようです。



6 研究協議

(1) 外部人材を活用されたり体験的な授業を取り入れている学校がありましたら教えていただきたい。(高田商業)

- ・課題研究のビジネスマナー講座において実施している。年4回、専門学校の講師を招いている。また、体験的な学習においては、今年度南魚沼市市政10周年の企画で地元食材を生かした商品開発を行い、文化祭で販売予定である。(塩沢商工)

- ・学校設定科目「地域ビジネス」の授業で実施している。地元企業の方々からビジネスマナーや地域経済等の講義をしてもらっている。また、7月下旬には講義していただいた企業に見学に行き報告会を実施している。(三条商業)

(2) 各校の取り組み状況を閲覧できるようにできないか。(村上桜ヶ丘)

- ・外部人材を活用した授業実践など各学校の取り組みを商業部会で集約をお願いできないか。高教研商業部会のホームページができたので、そちらで諸活動を紹介してほしい。(村上桜ヶ丘)

(3) 来年度学習指導要領の完成年度になりますが、ビジネス科目をどのように実施しますか。指導内容の工夫や各科目・検定とのかかわりについて教えていただきたい。(三条商業)

- ・授業では検定を意識せず行っている。(新潟商業)

- ・商業科教員4人体制で行っている。職員数が少

ないため教員間で教材を共有して工夫している。2年生からコース別で実施し、検定を全員受験としている。数名ではあるが、上位級を目指している。(新潟向陽)

- ・2年からコース制を行っている。検定に重きを置かず記帳練習やプレゼンテーションなどを行っている。(五泉)

- ・長岡CATの活動など体験的な学習を行っている。(長岡商業)

- ・2年ビジネス系列で学習しているが、担当者によって学習内容が変わる。(村上桜ヶ丘)

- ・1,2年各2単位でビジネス基礎を行い、電卓検定につながる指導を行っている。(塩沢商工)

- ・2年からコース制を行い、新聞を読ませたり、映像を見せたり工夫している。(高田商業)

- ・1,2年各2単位でビジネス基礎を行い、電卓検定につながる指導を行っている。また、NHKのビジネス系の番組を視聴し、感想を毎回書かせている。(糸魚川白嶺)

- ・ビジネス科目を各年に用意している。いずれも商業経済検定につながる授業を行っている。(三条商業)

7 概要説明

内容 学校設定科目「プランニング」について～生徒のビジネスアイデアを実現する教室～
 県立三条商業高等学校 教諭 坂口和成

三条商業高等学校の創造ビジネスコースの学習内容である「プランニング」の授業内容を紹介しました。学科改編から今年度で4年目を迎えこの春総合ビジネス科1期生が卒業しました。昨年度の取り組み状況を中心に資料を用意し、報告しました。

8 実践発表

内容 県立三条商業高等学校 3年1組
 生徒3名

創造ビジネスコースの生徒が、学校設定科目「プランニング」の授業での活動を報告しました。今年度は、10月18日(土)に学園祭を実施し、生徒が考えたオリジナル商品や軽自動車の販売など経験したことを参加者の前で実践発表しました。

9 企業見学および説明

内容「モノ作り三条の挑戦」

株式会社諏訪田製作所 営業部 部長

大島 奈津子様

今回企業訪問させていただいた諏訪田製作所は新潟県三条市にあります。江戸時代から鍛冶の盛んな地域で、冬の長い新潟県で閑農期の副業として和釘の鍛冶が始まり、鎌、鋸、包丁と種類を増やしながら発展を遂げたそうです。研修内容は諏訪田製作所の歴史や、商品の紹介、作業工程を拝見しました。

諏訪田製作所では、現在 35 名の職人が腕を振るっています。70 代、80 代のベテラン職人もいらっしゃいました。ダイヤモンドやすりを使って微調整する最終工程では、彼らの鋭い審美眼と卓越した職人技が光っていました。(三条商業坂口和成)



「総合分野」研究会

- 1 期 日 平成 26 年 11 月 26 日 (水)
- 2 会 場 瀬波温泉「大観荘 せなみの湯」
- 3 参 加 10 校 18 名
- 4 日 程
受 付 9:45～10:10
開 会 10:15～10:35
講 演 ① 10:40～11:35
質疑応答 11:35～11:40
講 演 ② 12:30～13:45
質疑応答 13:45～13:50
町屋見学 14:00～16:10

5 講演 ①

演題「瀬波温泉の歴史と現在における取り組み」

講師 大観荘せなみの湯 小田 慶一 様

(1) 瀬波温泉の歴史

明治 3 7 年に石油を採掘して温泉が発見されたのが始まりである。平成 2 4 年に 1 1 0 周年を迎えたが、関西方面と比べると比較的新しい温泉地といえる。

明治 4 3 年に七軒の湯治宿として始まり、冬場は海風が強風になるため営業ができず、村上市内近くの山際に建物を建てていた。

昭和 2 年ころから海岸に近い場所に一軒また一軒と旅館が進出していった。また、昭和 1 2 年には与謝野晶子が瀬波温泉に 2 泊 3 日逗留し、四五首の詩を詩ったが、現在、瀬波温泉街に樹木にプレートをはめ込んだ歌碑が建っている。

昭和 2 5 年に瀬波温泉観光協会が設立され、近くにはすずきヶ池公園があり、公園内では貸ボート・ローラースケート場・釣り堀・遊園地などがあり盛況をはくした。

昭和 5 0 年代になり、全国的に団体旅行が流行していく中で「歓楽街がなかったため。」瀬波温泉はやや衰退期をむかえた。

(2) 現在における取り組み

8 月中の 3 日間に瀬波海岸において、潮太鼓のこども発表会・花火大会・抽選会など地域住民と宿泊客も一緒に楽しめるイベントの企画を地道に行なってきたことで、少しずつ個人のリピーターの旅行者も増加してきている。

そして、平成 2 1 年には、瀬波温泉街で出る食料残飯と酵素および温泉熱を利用したバイオマス発電による「売電」や「熱帯植物園」の運営に利用する施設ができ、全国の大企業や自治体からも注目されている。

また、村上の町屋が有名になることで、村上市内は平日でも多くの人が市内を歩く姿が目につくようになり、それに伴って瀬波温泉の宿泊客数も増加している。

特に、3 月の「お人形さま巡り」9 月の「屏風まつり」などのイベントで歴史や人情に触れてもらっている。また、体験的なものとして、お茶ソムリエ・椎朱・茶染めなどの企画をマイカー宿泊者などに紹介している。



(3) 大観荘せなみの湯における取り組み

かつては、瀬波温泉といえば7月から8月の夏の時期と年末・年始の間が年間の売上高であった。8月中だけで通常の3ヶ月分の売上高があった。1月から4月は新年会や歓迎迎会などがあつたが、現在ではそのような会も減少し、冬場の売上高の増加が課題となっていた。

そこで、「真冬に日本海の海岸に出て風雪を体験してもらおう。」という企画を関東方面に向けてアピールしたり、平日バイキングプランとして、「自分が食べたいものを！自分の好きなものを食べて！温泉に入ってゆっくりできる。」という企画を、新潟市内のご年配のご夫婦に向けてアピールしたり、砂浜に温泉を作ったり、宝探しゲーム・7月下旬～8月下旬まで（大雨と風が海側から吹いている日を除き）毎日午後8時に花火を打ち上げる企画をするために、従業員で花火師の資格を取ったりして努力した結果、村上市内や近郷の方を含めたりピーターの人々の獲得に成功している。「まさに、継続は力なりと実感している。」

平成18年からはハワイアンフェスティバスとして、毎年8月末の土曜日・日曜日には、フラダンス教室や、フラダンスクラブの発表の場として定着しつつある企画もあり、遠くは九州からハワイアンの人々が来たり、東日本大震災の後には、福島県のハワイアンセンターの方が参加したりした。

(4) 大観荘せなみの湯の現状

平成4年頃から一年間を通じて喜んで来ていただけの施設を作ってきた。新卒の若い社員を採用し、外部講師を招いて新しいサービスの形を構築した。年配の社員が多かったが、現在では若い社員が全体の70%を占めるまでになっており、毎年10名を採用しており、地元と通勤範囲圏内の他に、新潟市内からも2～3名の採用もあることから社員寮も完備している。また、新卒者の採用試験は内申書と面接・作文の試験を行っているが、特に、面接における協調性・身だしなみ・挨拶・笑顔・会話の仕方など

の重視している。

※質疑応答

①閑散期における集客方法のアイデアがどんな所からでるのかお聞きしたい。(五泉)

・社員・お客様のアンケート・他の観光地の様子などがあるが、マスコミ(業界紙や情報誌)の情報が大きい。ただし、バイキングについては他の宿泊施設と同じものをやってもだめなので差別化を図るとか、吹雪体験などは従業員との話し合いからでてきたものである。

②高速道路が延長になってきている現在において、県内の月岡温泉や近くの山形県内の温泉などと、将来的にどのように関わっていこうと考えているのかお聞きしたい。(新潟商業)

・あつみ温泉ICが平成27年度から着工予定であるが来春から「名古屋から1泊で来れる。」という企画で、遠い所へのアプローチを考えている。また、将来的には東北への通過点になる恐れもあり、今から秋田県や青森県への情報発信も考えている。

6 講演②

演題「市民の心意気でまちを活性化しよう！」

講師 村上町屋商人会 飯島 久 様



(1) 村上町屋商人会誕生のきっかけ

平成10年に村上市在住の吉川真嗣さんが当時、中央商店街はまったく人通りがなく、「何とかしなければならぬ。」と思っていたところ、全国町おこし会の福島県在住の五十嵐大輔さんに「村上には大変貴重なものがあり、村上の建物を見せた方が良い。」と言われて、自分のお金で、村上絵図を作成し「ぜひ、町屋の中をお客さんに見せてあげて欲しい。」と市内をまわる活動を始めた。当初は、中央商店街の

お店の方は興味がなかった。一年間の吉川真嗣さんの活動や行動を見ていた賛同者により、平成11年に村上町屋商人会が1店舗3万円を出資し、7店舗の賛同により発足した。現在は、70店舗のお店が加盟するまでになっている。

(2) 村上町屋商人会取り組みの経緯

平成12年には「雛人形を飾って欲しい。」と各店舗にお願いしたところ、しもた屋さんを含めて20軒の賛同を得て、第1回の「お人形さま巡り」が始まった。参加店会議で確認されていたことは「店のものを売ろうとしないこと。10人のお客さんが来店しても誰1人として店のものは買わないで帰ることがあたり前である。普段着の言葉でむかえる。」ということ徹底することであった。つまり、押し売りのような言葉は言わないということである。

当初、賛同した者の中には「お茶やお菓子を買わないのに人形だけ見て帰るのはおかしい。」という考えを持つ方もいた。また、「1ヶ月間で3万人の人が来れば成功。」と考えていた。しかし、平成12年3月12日のNHK教育番組「日本美術館」で取り上げられた影響が大きく、県外の親戚や友人からの問合せが女性中心に市内在住の方にあたりして、第1回目「お人形さま巡り」は6~7万人の人出となった。その後、回数を重ねるたびに、見学に来たお客様の口コミで「町屋がよい。」ということで男性のお客さんが増えてきた。行政にはまったく頼らないで、町屋商人会を中心に活動を続けていたところ、平成13年には「全国各地方の町おこしイベント」でどこが一番良かったかという表彰で賞金100万円をもらった際は、「各店舗で1万円ずつ分けるか。」という意見もあったが、この賞金をもとに写真集を作り、1部1,000円で販売し、そのうちの一部を手数料とし、商人会の運営費に充てた。

第1回「お人形さま巡り」では、町屋商人会の小杉和也さんの発案で、当時の村上小学校の校長先生に協力を願い、当日の朝9時に生徒・保護者で作った紙のリングテープを使ったテープカットをしたり、地元の歌を歌ったりして開幕式を行った。その当時は「授業時間に生徒を参加させる。」などとは考えられる時期ではなかった。

平成13年9月10日からは「屏風まつり」が始まり、平成14年からは、その年から村上駅長に赴任した平原駅長のはからいで、SL列車を走らせるようになった。村上中等高校(旧村上女子高校)の生徒さんが駅で着物の着付けやお茶出しを手伝ったり、村上東中学校の生徒さんがポストカードを作成しSL列車内で配布したり村上駅での送迎会が始ま

った。その後、特急の脱線事故があり、「華々しい送迎会をやっても良いのか。」という意見がでて、「祭りごとはだめ。」という風潮になり、SL列車も中止になるかもしれないという事態になった年には、町屋商人会で送迎会を企画・運営したりして、苦労もあったが現在では村上郵便局や市内の銀行職員も協力するようになってきている。

その後、「竹灯籠まつり」「黒屏1マイル運動」などの企画も始めたが、平成24年3月には「お人形さま巡り」の10年目を記念し、「お人形さま仮装行列まつり」を企画することで、テレビをはじめとするマスコミにも更に取り上げるようになった。近年では瀬波温泉「町屋巡り手形」を発行し、宿泊客を送ってくれるようになり、市内の生徒も就職先として希望するようになってきている。

(3) 企画段階での問題点

平成12年3月から始めた「お人形さま巡り」の成功当時から吉川さんの企画に対して、「タダでお人形さまを見せることはない。手形を¥1,000で売ればよい。」という考えと「人がいっぱい集まったからお金をもらおう？」という、相反する考えが常にあり、いろいろな企画が大きくなっていく中で、主催者に対して参加している人の歩行マナーや開催期間中の問題・駐車場の問題などがクローズアップされてきており、また、マスコミに取り上げられる機会も多くなり、経費の面でも今までのように中央商店街だけでは厳しくなってきたり、今後は県や行政に任せることも検討している。

(4) 村上市町おこし今後の取り組み

『村上大祭』については「村上のお祭りは、我々が楽しむものだから観光客に見せびらかす必要はない。」という誇りを持てた。長く続くのはりピーターの存在があるからである。

以前、村上女子高校において「都会に出る卒業生が多いので、村上にはシャケを扱う文化があると広められるように、村上市民会館で割烹や旅館の華板さんを講師にして料理講習会を行いたい。」と申し入れ実施したところ、当時の生徒に好評であり、その企画は3年間続いたという経験がある。

今後、市外に対しては村上＝「酒・シャケ・情け」の街でアピールして行こう！例えば、「村上は良い所です。お口に入るのは、まず、おいしい。村上は大きな自然災害がなく。大火もなく自然と歴史が豊かなところですよ。」

また、市内には地産地消を推進していこう！例えば、道路拡張工事に伴う建て替えの時に村上市内の業者に依頼することで、請負業者がお茶を買ってく

れる。また、お酒については祝いの席に持っていくのは松竹梅や月桂冠ではなく、八張鶴と太平洋盛が喜ばれる。コンビニエンスストアではなく各店舗前に自動販売機を設置するなど地元志向をアピールする。

そこで、シャケ料理ができるようになることで「村上」に誇りを持たせる指導も時には必要なのではないかと思う。新しいものだけではなく、古いものの復活も時には必要だと考える。

(5) まとめ

先生方へ、高校3年生になったら自分の育った地域(通っている学校の地域)のことを教えてほしい。就職試験の面接で村上のことを知らない生徒が受験に来ている現状がある。

※質疑応答

①以前何かで読んだのですが、吉川さんのお話の中で景観作りに苦労していると書いてありましたが、内容をお話したい。 (長岡商業)

・村上市の都市計画は40年前に創られたものであり、道路拡張反対の立場で吉川さんはいる。「昔からの城下町の町並みがよい。」と考えており、「狭い道路があり、アーケードのある町並みがよい。」という思いから近年町屋再生事業の一環として、「黒塀1マイル運動」を立ち上げている。

②新潟市内のようすを見ると万代地区と古町地区で競争していた時代から郊外店の発展がめまぐるしいと感じているが、村上の中央商店街ではどのようにお考えか聞かせてほしい。

(新潟商業)

・物を売るだけだったら郊外店が良いが、何でもかんでも良いわけではないと考える。買い物をしたついでに話をしていくという考えで、「村上には店の人が自分の話を聞いてくれて、話をしてくれる店が多い。」とか「雨が降ってもアーケードがあるから買い物がしやすい。」などと思ってもらえたら良いと考える。

7 町屋見学

案内 村上町屋商人会 理事 飯島 久 様

①吉川酒店・山上染物店(えびす坂)を見学

②黒塀通り(寺町)を見学

③崑っ川(大町)を見学・説明

・村上町屋見学を一番最初に実施した店舗であり、戦略上の建物として70mの通り間があり、その頭上に鮭が吊し干しにされている。家の中は1年中窓を開けており、子供たちは冬になると家の中でもアノラックを着て遊んでいる。村上では昔から



鮭を大切にしており、頭から尾っぽの先まで食すために120種類もの料理が考え出された。また、村上の鮭は地球上で一番走行距離の長い鮭であり、くわえて日本海側の海流に逆らって昇ってくるため脂身が少ないため、それを補うために1ヶ月間塩に漬け込み、その後水洗いして頭を下にした状態で吊り干しされていることから「塩引き鮭」と呼ばれるようになった。鮭の身質により選別し、一年間吊り干しにしたものを「酒びたし」と呼ぶが、村上独特の考え方で「切腹させてはいけない。」ということで、鮭のお腹は1ヶ所だけ切らずに内臓を取り出すことが村上鮭の特徴と言われている。県や市などの行政の助成はないが町屋の見学を続けてきている。

④小杉漆器店(上町)の見学

⑤富士美園(長井町)の見学・説明



・京都などにある関西風の町屋と違い、村上の町屋は広い通りから中へ入ると店の間・茶の間・台所の順に建てられていること。あえて茶の間の梁組みを見せたり、仏壇と神棚が同じ位置にあることが特徴である。これは神仏を踏まないということで二階を作らない。隣の家の壁と柱を共有することで天窓を明り取りにするためだったり、火災のさい火をまっすぐにあげることで、時間を稼いで隣の家を崩壊させ、類焼を減らすための工夫とされている。

水産部会

水産教育研究会

1 期 日

平成26年12月4日(木)

2 会 場

糸魚川市能生生涯学習センター

3 指導・助言者

新潟県立長岡農業高等学校

校長 大橋 忠義 様

4 日 程

受付	13:00~13:20
開会式	13:20~13:30
講演	13:30~15:00
実践発表	15:10~15:30
全水研発表報告	15:30~16:10
閉会式	16:20~16:40

5 講 演

演題

「海の魅力を伝えたい」

講師

東京大学海洋アライアンス
海洋教育促進研究センター
特任教授 窪川 かおる 様

講師が行った調査から、海洋関係の教育機関は、入学についての男女の区別は行っていないが、女性が少ないことが明らかになった。海を学ぶのに男女差はあるのだろうか？子どもの成長過程における教育で、家庭教育、初等中等教育での海への学びに男女差はないが、大学・大学院で水産・海洋について学ぶ女性は少なくなる。海への学びについて、どの発達段階で差が生じてくるのだろうか。

国民生活白書によると、家庭での育児にかかわる時間の比率は母親のほうが多い傾向にある。また、

で二階を作らない。隣の家の壁と柱を共有することで天窓を明かり取りにするためだったり、火災のさい火をまっすぐに上げることで、時間を稼いで隣の家を倒壊させ、類焼を減らすための工夫とされて

小学校までの教員の女性の占める割合も女性のほうが高い。

海を知る女性を育て、家庭での教育や初等中等教育で海のことを学ぶ機会を増やすこと、海に関わる仕事に就く女性のロールモデルをつくり海の魅力を伝えていくこと等が、子どもの海洋リテラシー（海を理解すること）を育むことにつながるのではないだろうかという投げかけがあった。

また、講師の行っている小学生を対象としたアウトリーチ活動についても紹介があった。準備には数日間をかけ、対象学年に合わせて、人気のキャラクターを使用する、簡単なクイズを行うなどしながら楽しく海や海の生物に興味関心を持たせる等の工夫がされていた。

子どもと生き物をつなぐには、直接見る、触ることで親近感を芽生えさせることが必要である。バーチャルではなく本当にそこに生物がいることは「生命」を感じることである。社会教育施設・漁協・NPOなどの協力を得て、学校での学びを支援、拡大し深めることが大切であると提案された。

子どもたちへの水産教育はどうあるべきかについて、多くのヒントをいただいた講演であった。



6 実践発表

「水産資源活用産学官連携事業について」

新潟県立海洋高等学校

教諭 松本 将史

高校生が地元水産物の活用を図りながら町おこしに貢献する全国で初めての取り組みについて発表された。一般社団法人の同窓会が運営母体となり、生徒が製造販売・商品開発を行っていくという仕組みで糸魚川市との連携により、学校と市を全国的にPRしていくという内容であった。

家庭科部会

1 全県講習会

期 日 平成26年8月20日(木)

会 場 新潟会館

当番校 新津南高校

五泉高校

阿賀黎明高校

村松高校

参加者 53名



実習の様子



講師先生の作品

(1) 講演・実習

「一手から手へー 伝えようこども文化」

講師 新潟青陵大学短期大学部

幼児教育学科

助教 梨本 竜子 様



講演の様子

[内容]

「折り紙を通して子どもに育つもの」「子どもにとっての折り紙の魅力」「指導のポイント」を踏まえ、折り紙の種類や紙の縦方向横方向について説明を受けた。実習では伝承折り紙を中心に、コトン・コン、くるくるちょう、指人形、お山のおさる、トトロなどの折り方を教えていただいた。聴覚での情報処理能力が劣っている現代の子どもたちにも分かりやすい折り方の説明で、想像力・思考力が育つ言葉かけの大切さを認識した。参加した先生方からは、「童心に戻って楽しく実習できた」、「時間があっという間に過ぎた」、「生徒へのイメージの持たせ方・言葉かけの大切さも学ぶことができた」等の感想が寄せられた。

みで、糸魚川市との連携により、学校と市を全国的にPRしていくという内容であった。

(2) 講演・演習

「生徒参加型学習の実践」

講師 東京大学教育学部附属中等教育学校

主幹教諭 檜府 暢子 様



講演の様子

[内容]

東京大学附属中等教育学校での実践紹介、参加型学習のポイントについての講演をいただいた後、参加型学習を体験する演習を行った。最初にアイスブレーキングとして、フォーコーナーズという手法を使って互いの現状を知り、グループに分かれ、言葉カードを使った自己紹介を行った。その後「少子化について考える」授業体験をした。まずは、ウェビング、グルーピングという学習方法を用いて問題点を明らかにし、ダイヤモンドランキングという方法で原因を探った。最後に解決策を考えるためには、どのような参加型学習方法を使うとよいかをグループで話し合った。どのグループでも活発な話し合いがなされた。参加した先生方からは、「授業の中で活用可能なヒントを沢山いただいた」、「実際の演習を通して参加型学習の良さ、楽しさを実感でき有意義だった」、「参加型学習は生徒の思考力・表現力を育てていく効果的な手法であると感じた」、「校長先生方のグループの意見に男性の視点を感じられた」等の感想が寄せられた。



発表の様子

ダイヤモンドランキング



講演の様子

[内容]

スマートフォン・携帯電話に関するトラブルと問題点・対処方法について説明をしていただいた。「架空請求」では無料登録に誘われてクリックしてしまうことから起こるトラブルとそこからくりについて、「LINE」では有名人の名前を使うなどしてLINEとは関係のない外部サイトに誘導し、悪質な出会い系サイトへの登録を促して金銭をだまし取られる被害や電話番号流出・ID検索により知らない人から“おいしい話”を持ちかけられて犯罪に巻き込まれるケースなどについて寸劇を交えながらの説明があり、わかりやすい内容だった。最近ではLINEの乗っ取りやウェブマネーなど新しいトラブルも出てきている。トラブルに巻き込まれないために大切なことは次の3点、「正しい知識を身につけること」「相手の言い分を鵜呑みにしないこと」「困ったらひとりで悩まず相談をすること」。

(5) 研修報告

○平成25年度新潟県高等学校企業派遣研修

新潟県立久比岐高等学校

教諭 堀内 千恵子

○新潟県立高等学校教員

上越教育大学大学院派遣

新潟県立高田北城高等学校

教諭 勝海 由里子

2 家庭科部会委員会

期 日 平成26年12月2日(火)

会 場 長岡大手高等学校済美会館

出席者 新潟県教育庁高等学校教育課

指導主事 田中 謙一 様

新潟県立教育センター

指導主事 佐野 由美子 様

高教研家庭科部会部長

県立長岡大手高等学校長

藤澤 健一

高教研家庭科部会副部長

新潟県立西川竹園高等学校長

関矢 和彦

高教研家庭科部会副部長

新潟県立柏崎常盤高等学校長

南雲 充

新潟県立新潟中央高等学校教頭

丸山 綾子

各校家庭科部会代表 55名

(1) 開会

①高教研家庭科部会部長挨拶

藤澤 健一

②来賓挨拶

指導主事 田中 謙一 様

(2) 報告

平成26年度事業報告・中間会計報告

平成27年度事業計画・予算案

(3) 連絡

(4) 講演 「スマホ・携帯電話って

怖いもの!？」

講師 弁護士法人

新潟みなと法律事務所

弁護士 関 雅夫 様

佐藤尚志法律事務所

弁護士 佐藤 尚志 様



報告の様子



企業派遣研修展示

(6) 指導講評

新潟県立教育センター

指導主事 佐野 由美子 様

文部科学省主催の教育課程研究協議会家庭部会における望月昌代調査官からの「指導と評価の一体化」「言語活動の充実を図る授業作り」についての指導を踏まえて説明する。

指導計画はあるが、評価に結びついていないことが問題点である。シラバスは観点別評価を具体的に行うために評価計画を入れ、生徒に何をどこまでできるように授業を進めていくのかの評価基準を示していくことが具体的評価につながる。また、教師主導の授業ではなく、生徒が主体的・協同的に学ぶアクティブラーニングの効果的な活用が必要とされる。これらの内容を踏まえ、新年度の授業計画を工夫していただきたい。

(7) 新潟県高等学校長協会家庭部会報告等
新潟県立新潟中央高等学校教頭

丸山 綾子

(8) 閉会

閉会挨拶

高教研家庭科部会副部長

関矢 和彦

3 研究成果の刊行

「家庭科研究 50号」発刊

内容は新潟県高等学校教育研究会家庭科部会、県教育委員会による研修授業、高等学校長協会家庭部会、技術検定関連実践報告等を集録。

保健体育部会

1 研究会

期 日 平成26年7月14日 (月)

会 場 県立長岡大手高等学校

参加者 21名

<研究発表>

保健授業研究 「魅力ある授業展開」

発表者 長岡大手高等学校

教諭 對木 隆介

1 男子実施クラス

2学年5組 男子17名 女子22名

合計39名

2 教材 生涯を通じる健康

「6 加齢と健康」



2 全県研究会

期 日 平成26年12月1日 (月)

会 場 県立八海高等学校

参加者 40名

<講演会>

「ライフワークの中にスポーツを取り入れる楽しさ
について」

～ 楽しい体育授業から生涯スポーツへ ～

講師 川合 俊一

(公財) 日本バレーボール協会

強化副本部長

日本ビーチバレーボール連盟 会長



<講 話>

「保健体育の現状と課題」

講師 県教育庁保健体育課 学校体育指導係
指導主事 志田 哲也



参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
 協議 平成26年度事業報告及び決算報告
 平成26年度事業計画

(2) 研究中間報告

テーマ

「心因性の来室者と判断する

養護教諭の視点 part 2」

～抽出した視点を活かした健康相談の

実践とその検証(おかしな悩み～

研究部長 若月 和美

(3) グループ討議

「日常のかかわりを考える」

～養護教諭はどのような視点で対応の

ふるい分けをしているのか～

3 全県養護教諭研修会

期日 平成26年10月28日(火) 会場

新潟市万代市民会館

参加者 100名

(1) 指導・講話 「学校保健の動向」

県教育庁保健体育課

指導主事 脇川 恭子 様

(4) 講演

「学校不適應の理解と養護教諭の役割」

講演者 弘前医療福祉大学保健学部

教授 小玉 有子 様

4 研究成果の刊行

保健体育部会研究集録50集発行

*研究会等の詳細は研究集録参照

生徒指導部会

1 全県委員会

第1回全県委員会

期日 平成26年7月1日(火)

会場 県立巻高等学校 会議室

参加者 部長・副部長・全県委員・事務局

協議 平成25年度事業報告及び決算報告

平成26年度事業計画及び予算審議

地区幹事校選出

全県研究協議会の持ち方について

その他

第2回全県委員会

期日 平成26年9月9日(火)

会場 県立巻高等学校 会議室

参加者 部長・副部長・全県委員・事務局

協議 各地区研究協議会及び全県研究協議会

の持ち方について

第3回全県委員会

期日 平成27年1月20日(火)

会場 県立巻高等学校 会議室

平成26年度部会誌編集状況報告

平成26年度各地区幹事校の選出

2 全県研究協議会

期日 平成26年11月11日(火)

会場 燕三条地場産業振興センター

参加者 58名

講演 「ネットパトロールからみえる課題と対応について」

高等学校教育課青少年相談支援班

副参事 川崎崇史 様



平成26年度11月11日
燕三条地場産業振興センター
全県研究協議会 講演会の様子
研究協議 「各校の現状と課題について」
全体会 研究協議の報告
指導・助言
県立教育センター指導主事 増田てつ志 様

3 地区研究協議会

(1) 中越地区研究協議会

期 日 平成26年10月21日(火)
会 場 長岡地区セミナーハウス
栖風会館
参加者 15名
講 演 「少年非行の現状」
新潟家庭裁判所長岡支部
主任家庭裁判所調査官
奥村陽子 様

実践発表

「長岡商業高等学校の現状と実践」
県立長岡商業高等学校教諭 河合浩光

「六日町高等学校生徒指導の取り組み」
県立六日町高等学校教諭 井口真紀子

「三条東高等学校の現状と実践」
県立三条東高等学校 渡辺一弥

会 場 ほんぽーと／新潟市立中央図書館
講 演 中津井 浩子 様
(兵庫県：甲南高等学校・中学校 司書教諭)

(2) 上越地区研究協議会

期 日 平成26年10月30日(木)
会 場 ワークプラザ柏崎 大会議室
参加者 19名
講 演 「少年鑑別所における少年との関わりについて」
新潟少年鑑別所
所長 中島英治 様

実践発表

「本校における生徒指導の現状」
県立柏崎工業高等学校教諭 柳澤一成

「本校の生徒指導の概要」
新潟産業大学附属高等学校教諭 佐藤裕幸

4 刊行物

生徒指導部会誌第46号

図 書 館 部 会

1 総会

期 日 平成26年8月1日(月)
会 場 新潟県立生涯学習推進センター

2 講演会

i) 講演会

期 日 平成26年8月1日(月)
会 場 新潟県立生涯学習推進センター
講 演 中村 百合子 様 (立教大学 准教授)
演 題

「探究学習と学校図書館コレクション～国立国会図書館国際子ども図書館中高生向け調べものの部屋準備調査プロジェクトから～」

ii) 第二回講演会

期 日 平成27年1月19日(月)



『学校図書館は何をすべきか
～模索しながらの15年を振り返る～』

3 研究調査

i) 「The Library 高等学校図書館
利用の手引き」の改訂・活用

- ii) 図書館の利用状況に関するアンケート
- iii) SLA 北信越地区大会への参加



4 刊行物

名称「図書館部報 第59号」
(平成27年3月発行予定)

視 聴 覚 部 会

1 第61回NHK杯全国高校放送コンテスト

県予選兼第55新潟県高校放送コンテスト

期 日 平成26年6月18日(水)

会 場 新潟市音楽文化会館

参加者 196名(15校)

結 果

[アナウンス部門]

- 1位 西川 彩香(長岡商業・2年)
- 2位 佐藤 佑哉(長岡大手・2年)
- 3位 松本 侑紀(新潟明訓・2年)
- 4位 笛木 瑞歩(新潟明訓・2年)
- 5位 五十嵐絵美(中越・3年)
- 6位 西片 智紀(長岡大手・3年)
- 奨励 平岡 岳(新潟第一・3年)
- 奨励 土田美紗稀(長岡商業・3年)

[朗読部門]

- 1位 鈴木 夢乃(新潟明訓・3年)
- 2位 青木 かな(新潟明訓・3年)
- 3位 高橋 光(新潟明訓・2年)
- 4位 藻谷 美月(新潟・2年)
- 5位 渡辺小百合(長岡商業・3年)
- 6位 永松 梨奈(新潟明訓・2年)
- 奨励 金塚 梨紗(新潟・3年)
- 奨励 山本裕次郎(新潟明訓・3年)

[ラジオドキュメント部門]

- 1位 中越高校

2位 新潟明訓高校

3位 新潟高校

4位 長岡大手高校

[テレビドキュメント部門]

1位 新潟工業高校A

2位 新潟高校

3位 新潟工業高校B

4位 長岡大手高校

奨励 新潟明訓高校

[創作ラジオドラマ部門]

1位 長岡商業高校

2位 新潟明訓高校

3位 長岡大手高校

内 容 研究大会報告、研究会参加報告、
研究論文

冊 数 200冊(会員全員+全学校1部)

[創作テレビドラマ部門]

1位 新潟明訓高校

2位 新潟高校A

3位 新潟高校B

2 NHK杯全国大会出場者特別講習

期 日 平成26年6月21日(土)

会 場 NHK新潟放送局

参加者 12名(5校)

指導者 NHK新潟放送局 放送部副部長
アナウンサー 山田 貴幸 様

内 容 アナウンス・朗読技術の読み込み

3 第61回NHK杯全国高校放送コンテス

ト全国大会

期 日 平成26年7月22日(火)
～24日(木) 決勝
会 場 国立オリンピック記念青少年総合
センター・NHKホール
成 績 [テレビドキュメント部門]
優良校 新潟工業高校

4 放送技術者夏期講習会 兼視聴覚・放送担

当指導者講習会

期 日 平成26年8月16日(土)
～18日(月)
会 場 県立青少年研修センター
参加者 76名(8校)
指導者 長野県松本深志高等学校
長野県高文連理事 林 直哉 様
視聴覚部会顧問 和田 寛忠 様
他 高文連放送専門部委員
内 容 アナウンス・朗読の原稿、番組制作
の実習

5 第34回QK杯校内放送コンクール 兼

第27回新潟県高等学校放送コンクール

期 日 平成26年11月18日(火)
会 場 長岡リリックホール・シアター
参加者 88名(9校)

結 果

[アナウンス部門]

1位 松本 侑紀(新潟明訓・2年)
2位 山田ちひろ(新潟明訓・2年)
3位 笛木 瑞歩(新潟明訓・2年)
奨励 西川 彩香(長岡商業・2年)
奨励 堀 拓実(新潟明訓・2年)
奨励 佐藤 円(巻総合・1年)

[朗読部門]

1位 高橋 光(新潟明訓・2年)
2位 金澤 万莉(新潟明訓・2年)
3位 阿部 裕太(新潟明訓・2年)
奨励 高橋 佳生(新潟工業・2年)
奨励 田中 亜実(長岡商業・1年)
奨励 恩田 望美(新潟・2年)

[ラジオ番組部門]

1位 新潟明訓高校
2位 新潟高校
3位 長岡大手高校

[テレビ番組部門]

1位 新潟明訓高校
2位 新潟工業高校A
3位 新潟工業高校B
奨励 長岡大手高校
奨励 新潟高校

定 通 部 会

定時制・通信制教育総合研究会

期 日 平成26年7月29日(火)
会 場 NSG学生総合プラザSTEP
当番校 新潟翠江高等学校
参加者 148名
主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

1 研究発表

(1) 学習指導・進路指導

「数学の基礎学力の定着について」
新発田南高等学校豊浦分校 教諭 今井明子

(2) 生徒指導

「開志学園における生徒指導の取り組み」
開志学園高等学校 教諭 松本 靖

(3) 特別支援教育

「高田南城における特別支援教育の実践」
高田南城高等学校 教諭 倉部知博

【指導助言】

高等学校教育課指導主事 小林靖明

2 講演

「生徒の学びを促す教育へ向けて
～学びのユニバーサルデザインとは～」
国立大学法人新潟大学 准教授 有川 宏幸

役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 平成26年5月27日（火）
会 場 新潟翠江高等学校
議 事 平成26年度役員の委嘱について
報 告 平成25年度事業報告
平成25年度決算報告
協 議 平成26年度事業計画について
平成26年度予算について
平成26年度定通総研について

<第2回>

期 日 平成27年2月13日（金）
会 場 明鏡高等学校
報 告 平成26年度事業報告
平成26年度決算中間報告
協 議 平成27年度事業計画について
平成27年度定通総研について

県外視察

期 日 平成26年11月4日（火）、
5日（水）
視察校 群馬県立前橋清陵高等学校
群馬県立太田フレックス高等学校
東京都立砂川高等学校
神奈川県立厚木清南高等学校

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と国語教員の資質の向上		
	期日	7月28日(月)	10月24日(金)	2月6日(金)
	場所	高田北城高校	長岡大手高校	高陽荘
	研究会名称	運営委員会 代議員会	全県研究協議会	企画運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」		思考力・判断力・表現力の育成 を目指した授業改善について 「大学受験のための国語力」	
	講師職 氏名		早稲田大学総合科学学術院 教授 石原千秋 様	
	研究発表 テーマ 職 氏名		「小説『檸檬』を題材とした学 び合い学習」 佐渡高校教諭 細川美樹 「生徒が主体的に取り組む古 典授業の工夫～『奥の細道』朗 読CDを作る～」 堀之内高校教諭 加藤裕美子 指導主事講評 県立教育センター 山本寛	
参加者数	15名	70名	20名	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所 参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』61集		
	主な内容	研究協議会発表及び講演内容、各種研究研修報告等		
	冊数	200冊		

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期日	6月26日（金）	10月23日（金）	28年2月
	場所	高田北城高校	未定	高陽荘
	研究会名称	運営委員会 代議員会	全県研究協議会	企画運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」		思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について 「 未定 」	
	講師職氏名		未定	
	研究発表 テーマ 職氏名		発表者未定（2名予定） 指導主事講評 県立教育センター	
参加者数	20名	約60名	20名	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所 参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』62集		
	主な内容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊数	200冊		

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究			
	期 日	7月4日(金)	8月7日(木)～ 8日(金)	8月22日(金)	11月14日(金)
	場 所	新潟市万代市民会館	高陽荘他	ハードオフエコスタジアム	村上中等教育学校
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	合同研究会	地理・歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	思考力・判断力・表現力等の育成を目指す授業実践 「グローバル化時代の歴史教育」	「頸城丘陵における地域振興」	多様な生徒の関心・意欲を引き出す授業実践	思考力・判断力・表現力等の育成を目指す授業実践
	講師職氏名	国立教育政策研究所教科課程調査官 村瀬 正幸 様	公益財団法人雪だるま財団 小林美佐子 様		助言者 新潟大学教授 宮菌 衛 様 上越教育大学教授 志村 喬 様 新潟大学准教授 小林 繁子様
	研究発表 テーマ・職・氏名	○実践報告 報告者 関谷 明典 (安塚) 花ヶ前 薫 (糸魚川) 小竹 博昭 (巻)	○巡検 保倉川(景観見学)～あさひの里庄屋の家～越後松之山「森の学校」キョロロ・美人林(自由散策)～昼食～安塚地内施設見学～虫川の大杉	○実践報告 報告者 石平 伸一 (長岡明德) 鈴木 俊 (八海) 中村 智美 (西新発田) 高岡 晶子 (荒川) 加藤 歩 (加茂農林)	○公開授業 授業者 佐藤 大介 高見 由光 鈴木 健一 (いずれも村上中等)
	参加者数	34名	19名	27名	35名
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	『地理歴史・公民研究』 第53集			
	主 内 容	研究会報告、研究論文、センター試験問題講評、地歴・公民の広場など			
	冊 数	330冊			

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期日	7月3日（金）	7月中旬	8月3日（月） ～4日（火）
	場所	新潟市 万代市民会館	未定	佐渡
	研究会名称	総会・研究協議会	公民研究会	合同佐渡巡検
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	「金山を中心とする佐渡の歴史と現状（仮）」
	講師職氏名	未定	未定	高島 徹 西新発田高校学校長
	研究発表 テーマ・職・氏名	「思考力・判断力・表現力等の育成を目指す授業実践（仮）」 発表者未定	未定	（ルート（仮）） ・佐渡金銀山 ・南沢疎水道 ・妙宣寺 ・国分寺 ・大膳神社能舞台 ・真野御陵 ・真野歴史伝承館
	参加者数	未定	未定	未定
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書冊数			
刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』 第54集		
	主内容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊数	330冊		

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期 日	6月27日(金)	10月3日(金)	12月2日(火)
	場 所	新潟地区 (新潟会館)	長岡地区 (済美会館)	高田地区 (柏崎市立図書館)
	研究会 名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	高等学校における数学教育 の諸問題について 「私と離散数学教育」	高等学校における数学教育 の諸問題について 「学ぶ喜び、伝える喜び」	高等学校における数学教育 の諸問題について 「改めて数学的活動の充 実を考える」
	講師職 氏 名	新潟大学理学部 数学科准教授 鈴木 有祐 氏	作家・ プログラマー 結城 浩 氏	文部科学省 初等中等教育局視学官 長尾 篤志 氏
	研究発表テーマ 職 氏名	「新潟大学入試問題の分 析について」 県立新津高等学校 教諭・金澤 光則	「実数条件と 正像法・逆像法」 県立津南中等教育学校教諭 ・伊佐友希	「指導者用デジタル教材を 使った数学Ⅰ授業の試み」 県立久比岐高等学校 教諭・高見 英親
	参加者数	76名	63名	64名
研究調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開		
	調査の期日 場所 参加者数	県内各高等学校		
図書購入	図書名 冊 数			
研究成果 刊行物出 版	名 称	『数学教育研究集録』第53号		
	主な内容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容		
	冊 数	350冊		

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期日	6月（予定）	10月（予定）	12月（予定）
	場所	長岡地区 （未定）	高田地区 （未定）	新潟地区 （未定）
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	高等学校における数学教育の諸問題について 「未定」	高等学校における数学教育の諸問題について 「未定」	高等学校における数学教育の諸問題について 「未定」
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	「新潟大学入試問題の分析について」 （予定）	未定	未定
	参加者数	80名（予定）	80名（予定）	80名（予定）
研究調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開		
	調査の期日 場所・参加者数	県内各高等学校		
入 図書購	図書冊数			
刊 行 物 出 版	研究成果	『数学教育研究集録』第54号		
	主 内 容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容		
	冊 数	350冊		

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	7月9日 (水)	10月2日 (木)	10月29日 (水)	12月10日 (木)
	場所	長岡造形大学	長岡市立科学博物館 まちなかキャンパス長岡	高田商業高校	長岡高校
	研究会名称	第1回役員会	地学教育研究会	生物教育研究会	化学教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「里地里山と環境保全」	「マグマと海底火山」	「哺乳類の生態と種の保全」	「長岡発の『低炭素社会』実現に向けた研究について」
	講師職氏名	長岡造形大学 上野 裕治 氏	海洋研究開発機構 田村 芳彦 氏	「きらら自然の会」 会長 野紫木 洋 氏	長岡技術科学大学 竹中 克彦 氏
	研究発表 テーマ・職・氏名	H25事業報告・決算報告 H26事業計画・予算案 学内ビオトープ見学	施設見学	「位相差顕微鏡による原形質流動の観察」(新潟中央高校 佐藤政雄)「身近な鳴くカルタ」(吉田高校 本間巖)「生態系を学べるサイエンスカードゲーム『ばいおーむ』」(新潟翠江高校 土屋英夫)「授業をインタラクティブにする学習デザイン」(加茂暁星高校 坂田洋史)	「身近な酸化還元反応」(村上中等教育学校 尾崎巧)「パワーポイントによる授業の実践報告」(新潟翠江高校 中川千夏子)「柏崎高校のSSHについて」(柏崎高校 井部利光)
	参加者数	28名	12名	20名	19名
	期日	2月2日 (月)	2月17日 (火)		()
	場所	新潟明訓高校	新潟県立植物園		
	研究会名称	物理教育研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「小型心拍センサー“MY BEAT”の開発と、開発に必要なスキル」			
	講師職氏名	ユニオンツール株式会社 篠崎 亮 氏			

	研究発表 テーマ・職・氏名	「アクティブラーニングに関する形式的評価の有用性」(加茂暁星高校 坂田洋史) 「教員2年目を振り返って」(巻高校 樋口武人)	H26事業報告・決算報告 H27事業計画 施設見学		
	参加者数	20名	23名		
研究調査	主要テーマ	新カリキュラムに対応した実験書の改定作業			
	調査の期日場所・参加者数				
図書	図書名・冊数				
研究成果 刊行物	名称・内容・冊数	「理科研究集録」第54号・講演、研究成果の発表・350冊			

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期 日	6, 7月 未定	10, 11月 未定	10, 11月 未定	10, 11月 未定
	場 所	未定	中越地区	下越地区	下越地区
	研究会名称	総会	物理研究会	化学研究会	生物研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	27年度活動計画 ・予算案 「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
	期 日	10, 11月 ()	2月 ()	()	()
	場 所				
	研究会名称	地学研究会	役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	次年度活動計画 「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書	図書名・冊数				
刊行成果	名称・内容・冊数	理科研究集録 第55号 350冊			

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる			
	教科	全体	音楽	美術	書道
	期日	6月17日(火)	11月25日(火)	8月21(木)22日(金)	12月8日(月)
	場所	新潟翠江高等学校	東京学館新潟高等学校	長岡造形大学	まちなかキャンパス長岡
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術・工芸科 研修会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	実践発表 総会 研究協議会 分科会	公開授業 研究協議	実技研修会 「写真」	授業研究会
	講師職氏名			長岡造形大学教授 松本 明彦氏	
	研究発表 テーマ・職・氏名	【音楽】 「鑑賞活動」 教諭 佐藤 瑞枝 (豊栄高校) 【美術】 「立体造形」 教諭 田中 幸男 (長岡明德高校) 【書道】 「刻字」(公開授業) 教諭 加藤 亜希子 (新潟翠江高校)	「表現活動」 ～サザンオールスターズの楽曲を少人数グループで、アンサンブルする 教諭 村山文隆 (東京学館新潟高等学校)	「デジタル一眼レフカメラ基礎講座」	A:「漢字仮名交じりの書」進行:藤原香代子(村松高校) / 記録:柳 美和(栃尾高校) B:「篆書」「篆刻」進行:金子達雄(三条東高校) / 記録:阿部理恵(新潟江南高校) C:「行書の学習」進行:成田年樹(十日町高校) / 記録:小川貴史(新潟高校)
	参加者数	50名	16名	14名	19名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
購入図書	図書名冊数				
刊行物出版	名称	平成26年度高教研芸術部会報告			
	主内容	総会・研究協議会及び各科研修会の報告・まとめ			
	冊数	120部			

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	6月19日（金） 10月（予定）	11月 （予定）	8月 （予定）	11月 （予定）	12月 （予定）
	場所	アトリウム長岡	新潟市（予定）	県立近代美術館	妙高市	長岡市（予定）
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術・工芸 科研修会	第30回 県美大会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	<6月>総会・分 科会・講演会 (講演テーマ 「未定」) <10月>公開授業 ・研究協議会	実践発表 公開授業 研究協議	鑑賞教育 について	「かかわる かわる つな ぐ 造形教育」	授業研究 研究協議
	講師職氏名	前長岡造形大学理事 長豊口 協				
	研究発表 テーマ・職・氏名	公開授業 ※10月に小千谷 高校にて実施予 定（文科省指定 事業に係る公開 授業において実 施）	未定	未定	第2分科会 「地域・美術館」 長岡商業 霜鳥健二教諭	未定
参加者数	80名	25名	25名	25名	30名	
研究調査	主要テーマ	未定				
	調査の期日 場所・参加者数	未定				
図書購 入	図書名 冊数	未定				
刊 行 物 出 版	名 称	平成27年度高教研芸術部会報告				
	主 内 容	総会・研究協議会及び各科研修会の報告・まとめ				
	冊 数	120部				

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上		
	期日	8月11日(月)	11月1日(金)	3月14日(土)
	場所	デンカビッグスワンスタジアム会議室	県立新発田南高等学校	県立教育センター
	研究会名称	夏季研修会	全県英語科研究会	英語授業力向上セミナー
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上 ワークショップ 〔「input」と「output」の意味と意義〕	英語教育の推進と向上 「入試4技能時代の英語指導」	英語教育の推進と向上 「求められる英語授業づくり～自立した学習者を育てるために」
	講師職氏名	内田 浩樹 先生 国際教養大学 専門職大学院 教授	安河内 哲也 先生 一般財団法人 実用英語推進機構 代表理事 東進ハイスクール・東進ビジネススクール講師	太田 光春先生 文部科学省初等中等局視学官
	研究発表 テーマ・職・氏名	高等学校実践発表 笹川 孝志 (県立津南中等教育学校) 海外研修報告 佐久間 純子 (県立巻高等学校)	「4技能の指導」 大滝 友紀恵 教諭 (糸魚川高校) 「動機付け・学習支援」 高橋 有香 教諭 (新潟中央高等学校) 「授業改善の工夫」 和田 正太 教諭 (阿賀黎明高等学校)	中学校実践発表 大岩樹生 (新潟市立白新中学校) 高等学校実践発表 松井徹朗 (北海道立旭川北高校)
参加者数	90名	160名	120名	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名数			
刊行物出版	名称	「英語部会誌」第59号		
	主内容	研修会報告、研究会報告		
	冊数	350部		

平成26年度事業報告

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	10月11日(土)	11月15日(土)
	場所	柏崎エネルギーホール(上・中越) 県立生涯学習センター(下越・佐渡)	県立生涯学習センター
	研究会名称	高校生英語スピーチコンテスト予選	高校生英語スピーチコンテスト本選
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加者数	65名	20名
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名・冊数		
刊行 研究成果	名称・内容・冊数		

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月上旬	10月下旬	10月	11月
	場所	未定	高田北城高校	未定	未定
	研究会名称	夏季研修会	全県英語科研究会	高校生スピーチコンテスト（予選）	高校生スピーチコンテスト（本選）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上 「未定」	英語教育の推進と向上 「未定」	「 」	「 」
	講師職氏名	未定	未定		
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践発表 県内英語科 3教諭	「4技能の指導」 「動機付け・学習支援」 「授業改善の工夫」 県内英語科 6教諭		
	参加者数	100名	150名		
研究調査	主要テーマ	予定なし			
	調査の期日 場所・参加者数	予定なし			
購入図書	図書冊数	予定なし			
刊行物出版 研究成果	名称	「英語部会誌」 60号			
	主内容	研修会報告、研究会報告、寄稿			
	冊数	350部			

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	8月22日(金)	10月15日(水)	12月9日(火)
	場所	じょいあす新潟会館	新潟県立教育センター	新潟大学農学部 大会議室他
	研究会名称	農業教育研究大会	農業教育課題研究会	農業教育課題研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「バイオマスエネルギーを利用した農業システムと地域づくり」	農業科目における電子端末(タブレット)の活用法と指導法について	「国公立大学への進学希望者の進路実現に向けて」
	講師職氏名	株式会社 開成 代表取締役 遠山 忠宏	新潟県立教育センター教育支援課 教育企画班指導主事 加藤伸泰 他2名	新潟大学 新村末雄教授 藤村 忍准教授 中野 優准教授 望月翔太准教授
	研究発表 テーマ・職・氏名	第一分科会「農業の魅力を伝える科目『農業と環境』のあり方」 第二分科会「『実験・実習10分の5以上』における実験・実習と座学との融合・統合」 第三分科会「農業教育を活かした農業境大学への進学指導」	実技講習 電子端末を利用した教材	「農学部の研究紹介と社会人の学位取得について」
参加者数	59名	25名	19名	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書冊数			
刊行物出版	名称	『新潟県農業教育研究会誌』第49号		
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	180冊		

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	平成27年8月24日（月）	未定	未定
	場所	じよいあす新潟会館	未定	未定
	研究会名称	農業教育研究大会 （高田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （長岡農業高等学校）	農業教育課題研究会 （新発田農業高等学校）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定	未定
	参加者数	未定	未定	未定
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書冊数			
刊行物出版	名称	『新潟県農業教育研究会誌』第50号（加茂農林高等学校）		
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	180冊		

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月3日(木)	7月25日(金)	8月22日(金)	10月7日(火)
	場所	新潟工業短期大学	中越工業(株)	ナミックス(株)テクノコア	上越市
	研究会名称	機械・電子機械系見学会	電気・電子系見学会	工業化学系見学会	建築系見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「エンジンの燃費と環境適応～次の10年を予測する」	小水力発電実験装置見学会	ナミックス(株)見学会	北陸新幹線「上越妙高駅」新築工事現場見学会
	講師職氏名	新潟工業短期大学教授 小宮孝司			
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数	19名	13名	13名	21名	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行物出版 研究成果	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第51号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成26年度研究集録			
	冊数	220冊			

平成 26 年度事業報告書

(見学会・講習会の部)

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月8日(水)	1月20日(火)		
	場所	柏崎市	新潟工科大学		
	研究会名称	土木系見学会	ロボット技術 研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	鶴川治水ダム 建設工事現場 見学会	ロボット技術研 究議会		
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	20名	名		
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数 冊				
刊 研究 行 成果 物 出版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第51号			
	主 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成26年度研究集録			
	冊 数	220冊			

平成26年度事業報告書

(研究会の部)

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月25日(金)	8月22日(金)	10月3日(金)	10月7、8日(火、水)
	場所	柏崎工業高校	新潟工業高校	長岡工業高校	上越総合技術高校
	研究会名称	電気・電子系研究会	工業化学系研究会	機械・電子機械系研究会	建築系講演会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	小水力発電設備の現状	化学系研究会	関機研について	「歴史的に見た建築構法の変遷と建築教育への反映」
	講師職氏名	中越工業(株)代表取締役 網島 浩			長岡造形大学教授 平山育男
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	13名	12名	26名	24名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書冊数				
刊行研究成果 出版物 版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第51号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成26年度研究集録			
	冊数	220冊			

平成26年度事業報告書

(研究会の部)

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月7, 8日 (火、水)			
	場所	上越総合技術高校			
	研究会名称	土木系講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	地理院地図と地理院マップシート活用実習			
	講師職氏名	国土地理院北陸地方 測量部防災情報管理 官 仲井博之			
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	24名			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書冊数				
刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第51号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成26年度研究集録			
	冊数	220冊			

平成27年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表				
	期日	未定	8月25日 (火)	8月21日 (金)	10月中旬	10月中旬
	場所	未定	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	機械・電子機械系見学会	電気・電子系見学会	工業化学系見学会	土木系見学会	建築系見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	企業学校等見学会	工場見学	未定	未定
	講師職氏名					
	研究発表 テーマ・職・氏名					
	参加者数					
研究調査	主要テーマ					
	調査の期日 場所・参加者数					
図書購入	図書冊数					
刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号				
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成27年度研究集録				
	冊数	220冊				

平成27年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表				
	期日	1月中旬				
	場所	未定				
	研究会名称	ロボット技術 研究協議会				
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定				
	講師職氏名					
	研究発表 テーマ・職・氏名					
	参加者数					
研究調査	主要テーマ					
	調査の期日 場所・参加者数					
図書購入	図書冊数					
刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号				
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成27年度研究集録				
	冊数	220冊				

平成27年度事業計画（案）

（研究会の部）

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表				
	期日	未定	8月25日 (火)	8月21日 (金)	10月中旬	10月中旬
	場所	上越総合技術 高校	上越総合技術 高校	柏崎工業高校	新潟工業高校	新潟工業高校
	研究会名称	機械・電子機 械系見学会	電気・電子系 見学会	工業化学系 見学会	土木系 見学会	建築系 見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	企業学校等見 学会	工場見学	未定	未定
	講師職氏名					
	研究発表 テーマ・職・氏名					
	参加者数					
研究調査	主要テーマ					
	調査の期日 場所・参加者数					
図書購入	図書名数					
刊行物出版 研究成果	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号				
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成27年度研究集録				
	冊数	220冊				

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育	
	期日	平成26年11月11日（火）	平成26年11月26日（水）
	場所	三条商業高等学校	瀬波温泉大観荘せなみの湯 村上市内町屋
	研究会名称	「ビジネス分野」研究会	「総合分野」研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「地域経済を考える」 株式会社諏訪田製作所	瀬波温泉「瀬波温泉の過去と現在における取組み」 村上市内町屋「市民の心意気でまちを活性化しよう」
	講師職氏名	三条信用金庫 常勤理事 地域経済研究所 所長 味田 丈夫 様	大観荘せなみの湯 支配人 小田慶一 様 村上町屋商人会 理事 飯島 久 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	学校設定科目 「プランニング」について ～生徒のビジネスアイデアを 実現する教室～ 三条商業高等学校 教諭 坂口 和成	
	参加者数	9校 16名	10校 18名
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数	城下町村上 町屋人形さま・町屋屏風まつり 18冊	
刊行物出版	名称	『新潟県商業教育』第50号	
	主内容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. その他	
	冊数	36冊	

平成27年度 事業計画(案)

研究会・講習等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育	
	期 日	未定	未定
	場 所	新発田商業高校	柏崎総合高校
	研究会名称	未定	未定
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加者数		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
刊行物の 研究成果出版	名 称	『新潟県商業教育』第51号	
	主 な 内 容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. その他	
	冊 数	400冊	

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展をめざして
	期日	平成26年12月4日（木）
	場所	糸魚川市
	研究会名称	平成26年度 水産教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	海洋教育の充実 「海の魅力を伝えたい」
	講師職氏名	東京大学海洋教育促進研究センター特任教授 窪川かおる様
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践発表「水産資源活用産官学連携事業について」 新潟県立海洋高等学校 教諭 松本 将史 全水研発表報告等 新潟県立海洋高等学校 教諭 新井 清久 教諭 貝田 雅志
	参加者数	22名
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名数	
研究 成果 刊 行 物 出 版	名称	平成26年度 水産教育研究
	主内 容	平成26年度 水産教育研究会のまとめ
	冊数	45冊

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展をめざして			
	期日	H27年12月4日 (金)	()	()	()
	場所	糸魚川市			
	研究会名称	平成27年度 水産教育研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	海洋教育の充実 「未定」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	研究調査に関わる報告 会 他			
	参加者数	40名			
研究調査	主要テーマ	スーパープロフェッショナルスクールに関わる諸課題の解決			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書冊数				
刊行物出版	名称	平成27年度 水産教育研究			
	主内容	研究成果報告			
	冊数	45冊			

研 究 会 ・ 講 習 会 等 の 開 催	目 的	家庭科教育の充実と発展	
	期 日	8月20日(水)	12月2日(火)
	場 所	新潟会館	長岡大手高等学校
	研 究 会 名 称	全県講習会	部会委員会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	実践力を育てる生徒参加型授業 の取り組み 1 講演・実習 「一手から手へー 伝えようこども文化」 2 講演・演習 「生徒参加型学習の実践」	1 報告・計画 平成26年度事業報告 平成27年度事業計画 2 講演 「スマホ・携帯電話って怖い もの!？」 3 研修報告 4 研究発表 内容未定
	講 師 職 氏 名	講演1 新潟青陵大学短期大学部幼児教育 学科 助 教 梨本 竜子 様 講演2 東京大学教育学部附属中等教育 学校 主幹教諭 檜府 暢子 様	弁護士法人 新潟みなと法律事務所 弁護士 関 雅夫 様 佐藤尚志法律事務所 弁護士 佐藤 尚志 様
研 究 発 表 テーマ・職・氏名		○平成25年度新潟県高等学校 企業派遣研修 県立久比岐高等学校堀 内 千恵子 ○新潟県立高等学校教員 上越教育大学大学院派遣 県立高田北城高等学校 勝海 由里子	
参 加 者 数	53名	61名	
研 究 調 査	主 要 テ ー マ		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数		
刊 行	名 称	家庭科研究50号	
	主 な 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	180冊	

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	8月10日（月）	12月1日（火）
	場所	燕三条地場産業振興センター	長岡大手高等学校
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	報告・計画 平成27年度事業報告 平成28年度事業計画 その他未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書冊数		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	家庭科研究51号	
	主 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	180冊	

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修		
	期 日	7月14日(月)	12月1日(月)	10月28日(火)
	場 所	長岡大手高校 (長岡市)	八海高校 (南魚沼市)	万代市民会館 (新潟市)
	研究会名称	役員会・委員会 及び研究会	全県研究会	保体部会(養護教諭) 兼県養研高校部全県 研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	魅力ある授業展開 「保健授業研究」	「ライフワークの中 にスポーツを取り入 れる楽しさについて」 ～楽しい体育授業か ら生涯スポーツへ～	心因性の来室と判断 する養護教諭の視点 P a r t II
	講師職氏名	長岡大手高校 教諭 對木 隆介	講師 川合 俊一	弘前医療福祉大学 保健学部 教授 小玉 有子
	研究発表 テーマ・職・氏名	「生涯を通じる健康 加齢と健康」 長岡大手高校 教諭 對木 隆介	「保健体育の現状と 課題」 保健体育課 指導主事 志田 哲也	講演内容 学校不適應の理解と 養護教諭の役割
参加者数	21名	40名	100名	
研究調査	主要テーマ	なし		
	調査の期日 場所・参加者数	なし		
購入図書	図書 冊数	なし		
刊行物 研究成果 出版	名 称	研究集録 第50集		
	主 内 容	研究会、講演会の内容収録		
	冊 数	250部		

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修		
	期日	7月中旬	11月上旬	10月下旬
	場所	未定	未定	未定
	研究会名称	委員会・研究会	全県研究会	体部会（養護教員）兼 県養会高校部全県研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	魅力ある授業づくり 未定	魅力ある授業づくり 未定	未定
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定	未定
	参加者数	50人	50人	100人
研究調査	主要テーマ	なし		
	調査の期日 場所・参加者数	なし		
図書購入	図冊名数	なし		
刊行物出版 研究成果	名称	研究集録 第51集		
	主内容	研究会、講演会の内容収録		
	冊数	250部		

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽		
	期 日	10月21日（火）	10月30日（木）	11月11日（火）
	場 所	長岡地区セミナー ハウス 栖風会館	ワークプラザ柏崎 大会議室	燕三条地場 産業振興センター
	研 究 会 名 称	中越地区研究協議会	上越地区研究協議会	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「少年非行の現状」	生徒指導の課題と対策 「少年鑑別所における少年との関わりについて」	生徒指導の課題と対策 「ネットパトロールからみえる課題と対応について」
	講 師 職 氏 名	新潟家庭裁判所長岡支部 主任家庭裁判所調査官 奥村陽子様	新潟少年鑑別所 所長 中島英治様	高等学校教育課 青少年相談支援班 副参事 川崎史様
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	事例発表 「長岡商業高等学校の 現状と実践」 長岡商業高等学校 教諭 河合 浩光 「六日町高等学校生徒指導の取り組み」 六日町高等学校 教諭 井口真紀子 「三条東高等学校の 現状と実践」 三条東高等学校 教諭 渡辺 一弥	事例発表 「本校における生徒指導の現状」 柏崎工業高等学校 教諭 柳澤 一成 「本校の生徒指導の概要」 新潟産業大学附属高等学校 教諭 佐藤 裕幸	研究協議 「各校の現状と課題」全体会 ・研究協議報告 ・指導助言 県立教育センター 指導主事 増田てつ志様
参 加 者 数	15人	19人	58人	
研究調査	主 要 テ ー マ	「育てる生徒指導……教師は生徒とどう関わるべきか」 ～情報化社会のなかで生きる力を育てる～		
	調 査 の 期 日 場 所・参加者数	全県委員会を3回実施 場所：県立巻高等学校 会議室 第1回(7/1 20人) 第2回(9/9 21人) 第3回(1/20 人)		
購 入 図 書	図 書 名 冊 数	なし		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	生徒指導部会誌 第47号		
	主 な 内 容	研究内容・資料・部会活動報告		
	刊 数	400冊		

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽		
	期 日	未定	未定	未定
	場 所	未定	未定	未定
	研 究 会 名 称	中越地区研究協議会	上越地区研究協議会	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策	生徒指導の課題と対策	生徒指導の課題と対策
	講 師 職 氏 名	未定	未定	未定
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	未定	未定	未定
	参 加 者 数			
研究調査	主 要 テ ー マ	育てる生徒指導……教師は生徒とどう関わるべきか		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	全県委員会を中心に3回会議を行う 場所：県立巻高等学校 参加予定数 26名		
購入図書	図 書 名 冊 数	なし		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	生徒指導部会誌 第48号		
	主 内 容	研究内容・資料・部会活動報告		
	冊 数	350～400冊		

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方
	期 日	8月1日(金) 1月19日(月)
	場 所	県立生涯学習推進センター ほんぽーと新潟市立中央図書館
	研 究 会 名 称	高教研 図書館部会 総会・講演会 高教研 図書館部会・講演会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「探究学習と学校図書館コレクション ～国立国会図書館国際子ども図書館 中高生向け調べものの部屋 準備調査プロジェクトから～」 『学校図書館は何をすべきか ～ 模索しながらの15年を振り返る～』
	講 師 職 氏 名	中村百合子 様 (立教大学 準教授) 中津井 浩子 様 (学校法人 甲南学園 甲南高等学校 ・中学校 司書教諭)
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	
	参 加 者 数	29名 24名
研究調査	主 要 テ ー マ	1. 『The Library』の今後の活用について 2. 図書館の利用状況に関するアンケート 3. SLA北信越地区大会への参加 第39回全国学校図書館研究大会(甲府大会) 甲府市 平成26年8月6日(水)～8日(金)
	調 査 の 期 日 場 所・参加者数	1. 県内高等学校図書館において適宜行う 2. メールにて調査依頼
購 入 図 書	図 書 名 冊 数	未定
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	『図書館部報』第59号
	主 内 容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等
	冊 数	200冊

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方		
	期 日	5月・1月	7月	12月
	場 所	5月 未定 1月 未定	未定	未定
	研 究 会 名 称	高教研 図書館部会 幹事会	高教研 図書館部会 総会・講演会	高教研 図書館部会 講演会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「今年度の運営について」 「次年度の運営について」	未定	未定
	講 師 職 氏 名		未定	未定
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名			
	参 加 者 数			
研究調査	主 要 テ ー マ	1. 『The Library』の今後の活用について 2. 図書館の利用状況に関するアンケート 3. SLA北信越地区大会への参加 2015年度地区学校図書館研究大会 石川県白山市（11月19日～20日）		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	1. 県内高等学校図書館において適宜行う 2. メールにて調査依頼		
購 入 図 書	図 書 名 冊 数	未定		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	『図書館部報』第60号		
	主 内 容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等		
	冊 数	200冊		

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。			
	期日	6月18日(水)	6月21日(土)	8月16日(土) ～8月18日(月)	11月18日(火)
	場所	新潟市音楽文化会館	NHK 新潟放送局	巻青少年研修センター	長岡リリックホール・シアター
	研究会名称	NHK杯全国高校放送コンテスト新潟県大会	NHK杯全国大会出場者特別講習	放送技術者夏期講習会・顧問研修会	QK杯校内放送コンクール
	研究会テーマ 「講演テーマ」			「放送活動の地域への広がりと貢献」「放送技術の指導方法の実際」	
	講師職氏名	NHK他 高文連専門部役員	NHKアナウンサー	松本深志高校教諭 林直哉 高文連専門部役員	高文連専門部役員
	研究発表 テーマ・職・氏名	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読 番組制作
	参加者数	196名	12名 (県大会入賞者)	夏期講習76名 顧問研修13名	88名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
入 図書購	図書冊数				
刊 行 物 出 版	名 称	「視聴覚教育研究」第52号			
	主 内 容	実践研究報告 平成26年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約			
	冊 数	100冊			

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。			
	期日	6月17日 (水)	6月20日 (土)	8月中旬	11月17日 (火)
	場所	新潟市音楽文化会館	NHK新潟放送局	未定	長岡リリックホール・シアター
	研究会名称	NHK杯全国高校放送コンテスト新潟県大会	NHK杯全国大会出場者特別講習	放送技術者夏期講習会	QK杯校内放送コンクール
	研究会テーマ 「講演テーマ」	情報発信としての放送活動の発展をはかる	県代表として全国大会の成果向上をはかる	「放送活動の地域への広がりと貢献」「放送技術の指導方法の実際」	次世代を担う放送活動の啓発をはかる
	講師職氏名	NHK他 高文連専門部役員	NHKアナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員
	研究発表 テーマ・職・氏名	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読 番組制作
	参加者数	180名	12名	70名	80名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
購入図書	図書名数				
刊行物出版	名称	「視聴覚教育研究」第53号			
	主内容	実践研究報告 平成27年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約			
	冊数	100冊			

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進
	期日	平成26年7月29日(火)
	場所	NSG学生総合プラザSTEP
	研究会名称	平成26年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の 推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「生徒の学びを促す教育へ向けて ～学びのユニバーサルデザインとは～」
	講師職氏名	国立大学法人新潟大学 准教授 有川 宏幸
	研究発表 テーマ・職・氏名	① 学習指導「数学の基礎学力の定着について」 新発田南高等学校豊浦分校 教諭 今井 明子 ② 生徒指導「開志学園における生徒指導の取り組み」 開志学園高等学校 教諭 松本 靖 ③ 特別支援教育「高田南城における特別支援教育の実践」 高田南城高等学校 教諭 倉部 知博
参加者数	148人(高校教員146人、県教委2人)	
研究調査	主要テーマ	先進校視察(教育課程、生徒指導、特別支援教育など)
	調査の期日 場所・参加者数	平成26年11月4日(火)、5日(水) 視察校 群馬県立前橋清陵高等学校、群馬県立太田フレックス 高等学校、東京都立砂川高等学校、神奈川県立厚木清 南高等学校 参加者 4名
図書購入	図書名冊数	
刊行物出版 研究成果	名称	実践集録 52号
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告
	冊数	350冊

平成27年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進
	期日	平成27年7月28日（火）
	場所	NSG学生総合プラザSTEP
	研究会名称	平成27年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会
	研究会テーマ	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の 推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～
	「講演テーマ」	「未定」
	講師職氏名	新潟産業大学 准教授 蓮池 薫 氏
	研究発表 テーマ・職・氏名	1 学習指導・進路指導・生徒指導 新潟翠江高等学校教諭 長岡明德高等学校教諭 堀之内高等学校教諭 2 県外先進校視察報告
参加者数	140人（高等学校教員136，教育委員会3，講師1）	
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名数	
刊行物出版	名称	実践集録 53号
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会のまとめ
	冊数	400冊

平成 26 年度 新潟県高等学校教育研究会理事会議事録

日 時 平成 26 年 5 月 15 日 (木) 13 : 30~15 : 00

会 場 新潟南高等学校 視聴覚教室

開 会 吉田 保夫 (新潟南高等学校副校長)

1 会長挨拶 羽田 春喜 会長 (新潟南高等学校長)

今年は役員の変更の年になっている。16 部会のうち、部長 8 名、副部長 21 名、幹事 8 名の改選がある。また理事会では昨年度の事業報告や決算とともに、今年度の予算案も審議していただくが、今年度の大きな案件として年会費の値上げについて検討していただきたいと考えている。今回は予備提案の形で現在の状況を説明させていただき、今後どのように対応していったらよいかご意見を伺いたい。15 年以上年会費は 2,000 円でやってきたが、現在、高教研の財政は大変苦しい状況となっている。今年度の予算案は各部会の活動にできるだけ支障が出ないように組ませていただいたが、今後この活動を維持するにあたって、年会費の値上げを検討しなければならない状況にある。

今日は昨年度からおこなっている各部会の活動報告を 5 部会からしていただく。昨年度からこの理事会もより実りのあるものになるよう工夫している。

慎重に審議していただいて、今年度の高教研の活動がスムーズにおこなわれるよう、ご協力をお願いしたい。

理事定数 82 名 過半数は 42 名 出席 26 名 委任状 48 名 あわせて 76 名
構成員の 2 分の 1 の出席で成立するという規約 14 条により本会の成立を確認

2 議長選出 慣例により羽田 春喜 会長を議長に選出

3 議事

① 平成 25 年度事業報告 土田 謙吾 幹事 (新潟商業高等学校)

理事会資料 2 ページ「平成 25 年度事業報告」及び「高教研 53 号」(平成 25 年度部会事業報告)を参照

家庭科部会で目標の変更があり、平成 26 年度の目標は「家庭科教育の充実と発展をめざして」となった。平成 25 年度の研究会は、合計で 57 件実施された。ここ数年で最も多い件数である。研究発表についても同様に 65 件と、増加傾向にある。研究発表者は前年度の 47 名に対して 64 名であり、大幅な増加となった。増加理由の 1 つとして地歴公民部会で指導法に関する合同研究会が新たに実施されるなど、いくつかの部会で活発な研究会が実施されたことがあげられる。研究会への参加者数も、昨年度の 1,661 名に対して今年度は 1,721 名と増加している。会員数が減少傾向にある中でも研究会が活発に行なわれたことで、参加者数を増やすことができたと考えられる。

—質問意見なし、承認—

② 平成 25 年度の活動から (研究助成等について) 土田 謙吾 幹事 (新潟商業高等学校)

理事会資料「高教研 53 号」80 ページ (平成 25 年度の活動から)を参照

平成 25 年度の会員数は 2,000 人を切り、予算面では厳しい状況が続いている。このような状況の中で新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部より助成をいただいている。会の活性化対策として、先生方の研究意欲を喚起する場として高教研を PR していただき、未加入の先生方、特に新採用の先生方へ積極的に参加を呼びかけていただきたい。

—質問意見なし、承認—

③ 平成 25 年度決算報告 小林 信子 幹事 (新潟南高等学校)

理事会資料 3 ページ「平成 25 年度収支決算書」及び「高教研 53 号」82 ページ (平成 25 年度収支決算書) を参照

支出の部で地歴公民部会と英語部会が予算額をオーバーしているが、昨年 1 月より復興特別所得税が導入されたことへの本部の対応が遅れ、各部会幹事にはご迷惑をおかけしてしまった。地歴公民部会の 387 円のオーバー分については、地歴公民部会の通帳の利息より補填してもらった。英語部会は広告費を得ているので超過分 67,528 円は広告費 70,000 円より支出し、差額の 2472 円を余剰金として本部に返金してもらった。

次年度繰越は 377,775 円であり、昨年度繰越の 816,785 円に比べてだいぶ減少している。来年度は運営方法を考え直さねばならない。

須藤 浩 会計監査委員 (新潟商業高等学校副校長) より執行状況も適正であると報告がある。

—質問意見なし、承認—

④ 平成 26 年度役員の交替・補充について 西脇 正和 幹事 (新潟南高等学校)

理事会資料 5 ページ「平成 26 年度高等学校教育研究会役員 (案)」参照

今年度は役員改選の年である。各部会から推薦された役員案を掲載した。

—質問意見なし、承認—

⑤ 平成 26 年度事業計画案 泉田 亮 幹事 (新潟高等学校)

資料 6 ページ「平成 26 年度事業計画 (案)」参照

各部会の目的は平成 25 年度と大きな変更点はない。

(各部会の計画の詳細については年報 42 ページ以降参照)

—質問意見なし、承認—

⑥ 高教研のホームページ開設について 保坂 哲 幹事 (新潟南高等学校教頭)

資料 7 ページ「高教研のホームページ開設について」参照

昨年度の理事会で高教研のホームページを開設してほしいという要望があり、ホームページを開設する方向で検討・調査をすすめてきた。県立教育センターの情報担当の協力もあり、今年度よりホームページを開設することになった。一番のメリットは新潟県の高教研の活動を県内にとどまらず県外にも発信でき、今まで以上の活性化が期待できることである。また『高教研年報』の刊行費と送料 (約 320,000 円) を削減することもできる。維持・管理は、メインページは事務局がおこない、部会ごとに設置したフォルダーについては各部会でおこなう。メインページは 8 月下旬をめどに完成させたい。

—質問意見なし、承認—

⑦ 平成 26 年度高等学校教育研究会予算案について 小林 信子 幹事 (新潟南高等学校)

資料 8 ページ「平成 26 年度高等学校教育研究会予算 (案)」参照

5 月 14 日現在の会員数で計算したが、昨年度に比べ会員数と繰越額が減少しているため、収入予算額は 4,883,107 円と、昨年度より 479,990 円減少している。そのため支出の部で、予算配分基準式の固定額を 125,000 円から 120,000 円に変更させてもらった。次年度の繰越金はほとんど見込めない状況だが、『高教研年報』を

刊行せず、事務局関係費を抑えることで各部会の活動にできるだけ支障のないよう配分した。

質問

江口 司 定通部会部長（新潟翠江高等学校長）

『高教研年報』が廃止されるということだが、各部会の部会誌も部会に一任して廃止してもよいか。

事務局より、部会費は例年に近い額で配分したため部会誌を刊行する予算は確保してある。ホームページに掲載して刊行物を発行しないという方法もあるが、その点は各部会で検討していただきたい、との回答があった。

議長より、高教研に加入しているメリットの1つに、年度末に刊行される部会誌が手に入ることがある。研究会に参加できなかった会員も活動内容や研究成果を知ることができる。各部会が今までと同じ活動ができるように、部会費は例年に近い額で配分されている。できるだけ今までの活動を維持していただきたい、との要望があった。

—承認—

⑧ 高教研会費値上げについて 保坂 哲 幹事（新潟南高等学校教頭）

資料9 ページ「高教研会費値上げについて」参照

高教研の会員数は平成元年度の4,035人をピークに年々減少し、平成25年度には2,000人を下回った。今年度は現在1,938人である。会員数減少に伴い収入が減少し、ここ数年の高教研の決算は繰越金を消化して運営をしてきた。今年度予算は各部会への予算配分基準式の固定額を縮小することと、『高教研年報』を冊子で刊行せずデジタル化してホームページに掲載し、刊行費と発送料の320,000円～350,000円の支出を抑えることで活動ができるようにした。しかし今年度のように部会費を縮小していくと各部会の活動が制限され、研究会本来の趣旨が薄れてしまう。事務局では何種類か試算をしてきたが、今後運営が困難になることは十分予想される状況である。会費を値上げすることで会員が減少する恐れがあるが、ここ15年以上会費の値上げをしていなかったこともあり、来年度以降会費を値上げし、配分基準は以前の基準に戻したい。資料9ページの平成27年度の試算は、会員数は平成25年度会員数から10%減、会費2,500円、配分基準は変えない場合で考えた。会員数は本年度の会員数が確定していなかったため、平成25年度の会員数を基準にした。

意見・感想

荒木 佳樹 国語部会部長（高田高等学校長）

苦心の策かと思われる。これまでの高教研の活動を維持するためには、値上げもやむを得ない。

武内 均 地歴公民部会長（豊栄高等学校長）

活動の水準を維持するにはやむを得ないとは思いますが、500円の値上げというと25%の増加なので、もう一段階置いてもよいのではないかと思います。

竹内 公英 農業部会長（加茂農林高等学校長）

会費を上げると会員が減るのではないかと心配である。

高倉 聡 理科部会部長（新井高等学校長）

値上げはやむを得ないと思う。しかし会費が2,100円～2,200円であれば仕方ないという感じはするが、2,500

円ということになるとこれを機会にやめる人も出るかもしれない。また平成 25 年度より会員が 10%減少するという試算であるが、約 2,000 人の会員から 10%減という 200 人減少するという計算になる。今年の会員数は昨年比 28 人の減少であり、試算の 10%という数が妥当かどうかという疑問がある。また検討していただければと思う。

齋藤 友紀雄 視聴覚部会長（糸魚川白嶺高等学校長）

値上げはやむを得ないと思う。値上げた分、これまでの活動を維持できればと思う。

議長より

退職者数が増加し、新採用の数が減っている。事務局の試算は、平成 27 年度は平成 25 年度より会員数が 10%減少するという形で考えている。これは全体的に教員数が減っているという状況もふまえ、悪い状況を想定して考えられている。

今回は予備提案としてうけとめていただき、秋以降に臨時の理事会を開催したい。それまでの間、各部会でもご意見を聞いていただき、部会長に意見を託すという形で、臨時理事会でご意見を伺えればと思う。方向性としては値上げをお願いしたい。

⑦ その他

事務局より各部会の会員名簿について連絡があった。

4 部会報告 「高教研部会取組状況について」参照

地理歴史・公民部会 武内 均 地歴公民部会長（豊栄高等学校長）

総会・研究協議会では都立西高等学校の篠田健一郎を先生に講演していただいた。生徒も教員も「授業で勝負」が合言葉である。文武二道をモットーに部活加入率は 130%であり、授業は知識注入ではなく考える授業が中心で、余裕を持って考えたり楽しんだりできる生徒を育成することが西高等学校の目標である。地理研究会では上越教育大学准教授の矢部直人先生から講演をいただき、GISの利用という地理における ICT 活用の最新方法をご教授いただいた。新しい地理授業の可能性を探ることができ大変参考になった。歴史研究会では田尻信先生の講演と合わせて、部会員から授業研究や自らの研究テーマについて合計 7 本の実践報告がなされた。また当初の計画にはなかったが、11 月末に合同研究会を開催し、「高 3 時におけるセンター試験に向けた指導法」をテーマに各科目から実践発表をしてもらった。

合同研究会では専門科目以外の発表を一堂に介し聴取できた。異動により専門以外の科目を担当する機会も増えているので、専門以外の科目を研究する必要性が高まっている。このような研究会は良い試みだと感じた。またセンター試験を含め受験対策の事例研究は活発に行われているが、同時に大学進学以外の生徒たちに対していかに興味関心の湧く授業を工夫するか、特に学力的に問題を抱える生徒たちに対する教材の工夫を協議しあうことが今後必要ではないかと考えている。

数学部会 上杉 肇 数学部会長（高志中等教育学校長）

数学部会は年 3 回の研究会・研究協議会をおこなっている。会場をローテーションさせ、どの地区の会員も近い会場で参加できるようにしている。各研究協議会では基本的に大学の教授ならびにそれに相当する方の講演会と、教諭の研究発表をセットにして行っている。7 月の研究発表「新潟大学の入試問題分析」は毎年定例で行っているものである。10 月の全県研究協議会では、NHK の特集番組の監修をした東洋大学小山信也先生

からご講演いただいた。3回目は地区研究協議会という名称ではあるが、他の2回の研究会・研究協議会に参加できなかった会員にも参加してほしいと考え、全県に案内した。

数学会では毎年新潟地区で中高連絡協議会を行っている。高校側と中学校側が交互に主催し、昨年度は高校側の主催で新潟商業高校を会場に行った。高校側25名、中学側24名が参加し、中学校の先生方に高校の授業を見学してもらった。また「全国学力・学習状況調査の結果分析」の講話や模試のデータ分析の協議により、活発な意見交換がなされた。会員数が減少傾向にあるため、さらに内容を工夫し、魅力ある研究会・研究協議会を開催していきたい。中高連絡協議会は、今年度は鳥屋野中学校で開催される。研修の場として素晴らしいものであり、ぜひ多くの部会員に参加してほしい。

農業部会 竹内 公英 農業部会長（加茂農林高等学校長）

昨年の8月の農業教育研究大会での講演テーマ「農業高校からの大学進学」は、常に大きな課題となっている。昨年度、全県の農業高校から国公立大学に進学した者はわずか2名であり、今年も高教研ではこの課題について研究する必要がある。10月の課題研究会では知的財産権を取り上げた。生徒にも指導できるよう、このようにさまざまな分野に関わって研究を深めたい。

また「連携」が大きなテーマとなっている。大学・専門学校・高校関係者が集まって、農業の次世代を担うリーダーを育成するために協議が行われている。小・中学校との連携はすでに進めており、いかに農業に興味をもってもらおうかという方向で様々な取り組みがなされている。高校・大学の連携もさらに進めていくべきである。単に大学の先生の講義を聴くだけでなく、大学生と一緒に勉強したりイベントを企画したりするなどの工夫が必要である。

農業教員の中では経験者が定年退職の時期を迎えている。経験者から農業教育のノウハウを受け継いでいくことと共に、新しい時代に対応して新しいアイデアを出していく必要がある。

図書館部会 坂下 忠士 図書館部会長（塩沢商工高等学校長）

いかに生徒たちに図書館を利用してもらうか、それぞれの学校図書館に役立ててもらえるよう、昨年度は講演会を企画し、県外の学校の状況や海外の状況を紹介した。7月の講演会では、千葉県立印旛明誠高等学校の司書山中規子先生よりご講演をいただいた。統廃合により学校が移転することとなった同校では様々な工夫がなされていた。12月の講演会では新潟大学教育学部の足立幸子先生より、海外の図書館事情と、高校における読書指導についてご講演いただき、国によって図書館に対するイメージが大きく違うことを学んだ。午後からは株式会社ブロの渡辺肇様より、本を販売するにあたっての販売者側からの視点に立ったご講演をいただいた。講演会の参加率は40%位であり、参加できなかった会員のために講演記録を詳細に載せた「図書館部報」を発行した。

定通部会 江口 司 定通部会長（新潟翠江高等学校長）

定時制・通信制教育総合研究会の参加率は80%であった。今後も多くの会員に参加してほしい。研究発表については問題提起として3校から発表してもらった。今年度の定時制・通信制教育総合研究会では、新潟大学の有川宏幸先生より主に特別支援教育やインクルーシブ教育についてご講演していただく。また今年度より県外視察を取り入れる予定である。県外の定時制・通信制高校において、発達障害に配慮した教育課程の編成や学校設定科目の工夫が行われている。義務教育段階の学習内容の確実な定着をはかるための学校設定科目や、コミュニケーションスキルの育成をはかるための学校設定科目などを取り入れ、社会に出てからの必要な能力の育成をはかっている。県外学校の状況を学び報告し、会員に還元できるようにしたいと考えている。

定時制・通信制学校では年齢構成や家庭環境も様々である。全国の定時制における中途退学数は11.5%で、

これは高校平均の 7.7 倍である。また不登校者数は 16.8%であり、高校平均の 9.9 倍である。発達障害のある生徒の数は定時制で 14.7%、通信制で 15.7%と、全日制の 1.8%に比べ非常に高くなっている。定時制・通信制学校では全日制の高校に比べ抱える課題も多様で複雑であり、多様な学びのニーズの受け皿としての役割を担っている。自分のペースで学べる不登校・中途退学経験者への学び直しの機会を提供する場、困難を抱える生徒の自立を支援する場として期待されている。義務教育段階からの学習内容の学び直しをさせる体制の強化、日々の生活指導や教育相談、将来を見通した進路相談など、学習面だけでなく学校の内外を問わず支援をしていく必要がある。また支援と相談を充実させるために、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門の相談スタッフの充実、学び直しをはかるための補習、教育相談の充実、学校外教育機関との連携が求められている。多くの課題があるが、定時制・通信制教育総合研究会で課題を共有していきたい。

5 事務連絡 理事会資料 10 ページ参照

6 閉会挨拶 島 吾郎 副会長 (新発田高等学校長)

高教研の役割は、1 つ目は時代の変遷に合わせた研修を行う場であることである。高教研が発足した 53 年前はベビーブームにより生徒が急増し、教員数も増加した。同一基準を保って高校教育をすすめるために高教研の活動が行われた。さらにその後学習指導要領の改訂やセンター試験の導入、現在は少子化など、時代の流れに対応した研修を行う場となっている。2 つ目は自分で研究・研修を深める場であることと同時に、仲間と連携して研究し、切磋琢磨できる場であることである。ネット社会ではあるが、組織に入って仲間と共に学び合うこと、連携をはかることは大切である。

今回の理事会では年会費の値上げについての予備提案があったが、秋までに各部会でご検討いただき、より新潟県高等学校教育研究会の活動が充実することを願う。

7 閉 会 吉田 保夫 (新潟南高等学校副校長)

平成 26 年度の活動から

1 研究会等

今年度も各部会の精力的な努力によって各種の研究会（講習会・見学会・展示会等）が開催されました。詳細については一覧をご覧ください。

2 研究助成等に関して

ここ数年来の会員数の減少に伴う会費収入の減少は続き、予算面で厳しい状況が続いています。このような状況の中で財団法人新潟県教職員厚生財団、及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部からご支援をいただき、本会の運営にあたっています。改めて紙面を借りて感謝申し上げます。

3 会の運営について

今年度は本会の運営についてこれまで懸案事項であった2つの件について事務局として対応・検討させていただきました。

(1) 新潟県高等学校教育研究会ホームページ開設について

8月から本会のホームページを開設しました。これにより、県内にとどまらず県外にも各部会の活動状況を発信することが可能となり、これまで以上に活性化や交流が期待できます。また、年報をPDF化しアップロードすることで約35万円の刊行費の削減が図れました。

ここに至るまで県高等学校教育課ならびに県立教育センターから多大なるご尽力を賜りました。また、新たな試みであったため、各部会幹事にはご苦勞があったかと思えます。紙面を借りて感謝申し上げます。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ <http://www.kokyoken.nein.ed.jp/>

(2) 年会費の値上げについて

現在、会員1人あたり2,000円の年会費を徴収し、本会を運営しております。しかしながら会員減に伴い収入減となり、このままでは各部会の活動に支障をきたすおそれが出てまいりました。平成27年度は従来通りの年会費で運営することとなりましたが、この件については今後も継続して検討課題として取り上げていきます。

4 会の活性化対策等について

本会会員数は平成元年の4,035人をピークに年々減少し、平成16年度は3,000人を切り、さらに平成25年度は2,000人を切りました。平成26年度の会員数は1,999名と昨年度比で若干増となったものの、今年度は各部会の予算配分を削減し事務局も通信費等の経費削減に努めてまいりました。会員数を増加させる起爆的な方法はなかなかありませんが、引き続き研究会等への参加を契機に未加入の先生方、特に新採用の先生方へ積極的にお声がけをいただきますようお願いいたします。

(文責・幹事：新潟南高等学校教頭 保坂 哲)

平成16年度以降予備費からの各種 大会への出資状況

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計	
		国語	地歴公民	数	学理科	音楽	美・工、書	英語	農業	工業	商業	水産	家庭科	保健体育	生徒指導	図書館	視聴覚	定通		
H16	部会名不明 北信越大会																		20000	
H17	繊維工業北信越大会									20000									80000	
	化学工業北信越大会									20000										
	機械工業北信越大会									20000										
	図書 北信越大会														20000					
H18	理科 北信越大会				20000														20000	
H19	工業 関東甲信越地区大会									20000									40000	
	数学 北陸四県数学研究会			20000																
H21	工業 北信越大会									20000									40000	
	生徒指導 講師謝礼の補助														20000					
H22	美・工、書全国大会						30000												30000	
H23	無し																		0	
H24	英語 スピーチコンテスト関係旅費補助							30000											30000	
H25	英語スピーチコンテスト関係旅費補助							40000											70000	
	工業北信越工業化学教育研究大会補助									30000										
H26	工業北信越工業化学教育研究大会補助									20000									20000	
		0	0	20000	20000	0	30000	70000	0	150000	0	0	0	0	20000	20000	0	0	350000	

平成26年度 収支決算書

収入の部

区 分	予 算 額(a)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b-a)	摘 要
会 費	3,876,000	3,998,000	122,000	年額一人2,000円× 1999 人
助 成 金	629,000	600,000	△ 29,000	県教職員厚生財団・教育公務員弘済会より
雑 収 入	332	214	△ 118	利子
繰 越 金	377,775	377,775	0	平成25年度より
合 計	4,883,107	4,975,989	92,882	

支出の部

I 部会別

区 分	予 算 額(a)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b-a)	摘 要				
				研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他
1. 国 語	306,000	250,594	△ 55,406	35,734	7,500	0	207,360	0
2. 地歴公民	317,000	317,000	0	220,946	3,390	0	92,664	0
3. 数 学	418,000	334,587	△ 83,413	182,047	0	15,876	136,664	0
4. 理 科	414,000	414,000	0	137,052	3,024	0	273,924	0
5. 芸 術	213,000	213,000	0	151,440	0	0	61,560	0
6. 英 語	481,000	480,833	△ 167	229,435	131,088	0	89,430	30,880
8. 農 業	294,000	294,000	0	164,000	0	0	130,000	0
9. 工 業	293,000	293,000	0	193,000	0	0	100,000	0
10. 商 業	236,000	236,000	0	182,000	0	18,000	36,000	0
11. 水 産	166,000	125,865	△ 40,135	83,565	0	0	42,300	0
12. 家 庭 科	266,000	266,000	0	136,000	0	0	130,000	0
13. 保健体育	264,000	264,000	0	226,389	0	0	37,611	0
14. 生徒指導	315,000	274,318	△ 40,682	52,899	6,391	0	215,028	0
15. 図 書 館	169,000	169,000	0	108,228	0	0	60,772	0
16. 視 聴 覚	147,000	139,305	△ 7,695	85,305	0	0	54,000	0
17. 定 通	274,000	274,000	0	111,486	35,290	0	127,224	0
本部関係	210,107	101,658	△ 108,449					
予備費	100,000	20,000	△ 80,000					
合 計	4,883,107	4,467,160	△ 415,947	2,299,526	186,683	33,876	1,794,537	30,880

Ⅱ 費目別

区分	予算額(a)	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘要
1. 研究大会費	2635500	2299526	-335974	
謝金	730185	930898	200713	
旅費	386000	325794	-60206	
使用料及び貸借料	529689	411044	-118645	会場使用料・設備使用料等
資料費	348742	322917	-25825	
通信運搬費	287384	183258	-104126	切手, 送料, 手数料等
賃金	185000	33664	-151336	テープ起こし
会議費	168500	91951	-76549	茶, 茶菓子, 講師弁当等
2. 研究調査費	58000	186683	128683	
資料費	29000	134112	105112	USB等の電子部品など
通信運搬費	5000	38718	33718	
会議費	24000	13853	-10147	
3. 研究図書購入費	0	33876	33876	数学ガールズ等
4. 研究成果刊行費	1879500	1794537	-84963	全部会で約3800部
5. その他	0	30880	30880	加盟登録費
6. 本部関係費	210107	101658	-108449	
事務費	190107	83622	-106485	通信費, 印刷封筒代, ホームページビルダー
会議費	20000	0	-20000	
刊行費	0	18036	18036	コピー用紙, 製本代
7. 予備費	100000	20000	-80000	工業部会(20,000円)
合計	4883107	4467160	-415947	

収入決算額 ￥ 4,975,989

支出決算額 ￥ 4,467,160

￥ 508,829 (次年度繰り越し)

役 員

理 事

会 長	羽田春喜 新潟南
副 会 長	加藤 寿一 新潟中央 島 吾郎 新潟田 轡田勝祐 長 岡 大塚俊明 高 田 藤井人志 佐 渡
顧 問	草間俊之 新 潟

部 会							
No.	部 会 名	部 長	副 部 長				
1	国語	荒木佳樹 高田北城	北岸信治 新潟江南	小竹聖一 新 津	中戸義文 小 出	吉井裕也 安 塚	
2	地歴公民	武内 均 豊 栄	岩田宏樹 新潟聾	高島 徹 西新潟田	滝澤 卓 川 西	津畑 進 有 恒	
3	数学	上杉 肇 高志中等教育	竹内正文 新津南	大坂 久雄 村上中等教育	吉田 弘 分 水	野澤恒夫 六日町	上野順治 柏 崎
4	理科	高倉 聡 新 井	長谷川雅一 長 岡	加藤徹男 新 潟	堀 昌明 加 茂	斎藤敦史 新潟中央	
5	芸術	坂下忠士 塩沢商工	小堺さとみ 新潟翠江	大田英則 巻総合	風巻 洋 小千谷	南雲 充 柏崎常盤	
6	英語	杉田 勉 久比岐	岡村澄江 白 根	山賀淑雄 巻	吉原 満 津南中等教育	竹内正宏 国際情報	萩野俊哉 高 田
7	農業	竹内公英 加茂農林	志田重道 新潟田農業	大橋忠義 長岡農業	高橋哲也 高田農業	須藤良平 佐渡総合	佐々木雅伸 柏崎総合
8	工業	安達弘哉 長岡工業	熊谷秀則 新津工業	大湊卓郎 新潟県央工業	木村 勉 上越総合技術		
9	商業	太田恭利 新潟商業	島峯 勉 長岡商業	平倉哲夫 高田商業	小形賢治 新潟田商業		
10	水産	久保田 郁夫 海 洋	木村和史 海 洋				
11	家庭	藤澤健一 長岡大手	関矢和彦 西川竹園	島峯 勉 長岡商業	南雲 充 柏崎常盤	須藤良平 佐渡総合	
12	保健体育	巻口 実 八 海	江龍田章 万 代	薄 一俊 松 代	柴田圭介 高田南城		
13	生徒指導	本田雄二 巻	今西博一 村 松	巻口 実 八 海	高橋哲也 高田農業	清水源一 相 川	
14	図書館	坂下忠士 塩沢商工	小形賢治 新潟田商業	齋藤友紀雄 糸魚川白嶺	藤井人志 佐 渡		
15	視聴覚	齋藤友紀雄 糸魚川白嶺	横堀真弓 新潟田南	大橋忠義 長岡農業	阿部正一 栃 尾		
16	定通	江口 司 新潟翠江	中島俊哉 荒 川	池嶋聖也 長岡明德	柴田圭介 高田南城	藤井人志 佐渡相川分校	神田正俊 開志学園

会計監査委

須藤 浩 新潟商業 白藤恵一 明 鏡 君伸一郎 新潟東

委 員

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新潟	1	新潟中央	斎京四郎	52	五泉・新発田	29	村上桜ヶ丘	遠山千勇	27	柏崎	63	柏崎	小林浩人	15
	2	新潟中央	丸山綾子	44		30	荒川	越昌宏	17		64	柏崎常盤	田邊薫	13
	3	新潟南	保坂哲	37		31	中条	高橋周之	5		65	柏崎総合	内山喜博	18
	4	新潟江南	北岸信治	29		32	阿賀野	遠宮武志	5		66	柏崎工業	中川誠一	18
	5	新潟西	坂元淳子	12		特7	村上特別支援		0		67	出雲崎	渡邊孝弘	8
	6	新潟東	君伸一郎	10		私12	新発田中央	木村英祐	12		特19	柏崎特別支援		0
	7	新潟北	竹田直人	9		中等1	村上中等	黒崎恵理子	20		私14	新潟産大付属	松井公平	7
	8	新潟工業	平倉政弘	43		33	長岡	岡田淳	33		中等2	柏崎翔洋中等	川上豪	10
	9	新潟商業	川上史人	29		34	長岡大手	内山崇	22		68	高田	田中健	35
	10	新潟向陽	小林裕貴	7		35	長岡向陵	榊厚志	12		69	高田北城	石和田弘	20
	11	新潟翠江	大島博文	45		36	長岡明德	村山庄吾	20		70	高田南城	笠井兵彦	19
	12	巻	中川佳代子	26		37	長岡農業	村山和彦	29		71	高田農業	竹園克裕	30
	13	巻総合	渡辺昭彦	16	38	長岡工業	石澤聡	19	72	上越総合技術	堀内義博	29		
	14	西川竹園	渡邊優子	6	39	長岡商業	梶良成	20	73	高田商業	大友康幸	14		
	15	豊栄	渡辺欣彦	8	40	正徳館	渡邊治夫	3	74	久比岐	岩井智幸	6		
	16	新津	小竹聖一	14	41	栃尾	阿部正一	14	75	有恒津畑	進	6		
	17	新津工業	住吉宏	20	42	見附	早川智	8	76	安塚	鈴木正之	9		
	18	新津南	佐藤浩	11	特3	長岡豊	石原美樹	3		松之山分校		0		
	19	白根	伊皆嘉樹	3	私9	帝京長岡	小熊牧久	9	77	新井	内田卓利	20		
	市1	万代	石川譲太	16	私10	中越	竹内拓	13	78	糸魚川	加藤幹男	14		
	市2	明鏡	白藤恵一	28	私19	長岡英智	岩下隆志・古口裕子	10	79	糸魚川白嶺	中村治彦	10		
	市中等1	高志中等	山田淳一	8	43	三条	奥田優	14	80	海陽	木村和史	28		
	特1	新潟盲	本間由紀	2	44	三条東	笠井富夫	13	中等5	直江津中等	萱森茂樹	12		
	特2	新潟豊	岩田宏樹	2	45	新潟県央工業	蟻塚孝	15	特13	高田特別支援		0		
	特5	西蒲高等特別支援		0	46	三条商業	徳永和教	10	特17	上越特別支援		0		
	特15	東新潟特別支援	笹山恵湖	3	47	吉田	石積希	12	私15	上越	風間和夫	13		
	特16	はまぐみ特別支援		0	48	分水	島田修	10	私16	関根学園	松嶋幸則	12		
	私1	新潟明訓	郷直人	68	49	加茂	堀昌明	6	81	佐渡市	野正廣	18		
	私2	北越	中村誠	22	50	加茂農林	真島徳衛	43		佐渡相川分校	佐藤綱雄	3		
	私3	新潟青陵	永井孝史	12	中等3	燕中等	平山剛	14	82	羽茂	渡邊進	8		
	私4	新潟清心女子		0	特10	月ヶ岡特別支援		0	83	相川	佐藤綱雄	10		
	私5	敬和学園		0	特18	吉田特別支援		0	84	佐渡総合	長井英幸	17		
私6	新潟第一	平田龍彦	64	私11	加茂暁星	熊倉進	15	中等6	佐渡中等	江川真	16			
私7	東京学館新潟	石田光憲	49	51	小千谷	小林皇司	12		県立教育センター	桑原勇重	18			
私8	日本文理	渡辺弘一	16	52	小千谷西	上村敏明	11	行	高等学校教育課	勝山宏子	15			
私17	開志学園	神田正俊	3	53	堀之内	中村剛	14		文化行政課	桐原宏史	6			
	開志国際学園		0	54	小出	佐野明義	8	政	保健体育課	志田哲也	10			
五泉・新発田	20	五泉	佐藤雄二	9	55	国際情報	竹内正宏	21		県文書館	加納直江	1		
	21	村松	早川勝志	12	56	六日町	植木勲	17		合計		1996		
	22	阿賀黎明	石井一也	12	57	八海	上杉一浩	7						
	23	新発田	柳沢幸也	29	58	塩沢商工	大國隆彦	18						
	24	西新発田	佐藤康広	10	59	十日町	磯邊一幸	32						
	25	新発田南	横堀真弓	25	60	十日町総合	百崎守	14						
		豊浦分校	渡邊幸晴	2	61	川西	五十嵐雅樹	4						
	26	新発田農業	村山英司	34	62	松代	薄一俊	9						
	27	新発田商業	野口純敬	9	中等4	津南中等	伊藤大助	15						
	28	村上	富樫信浩	11										

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	牛木信昭	高田北城	165	8	工業	鶴巻勝弘	長岡工業	154
2	地歴公民	鈴木健一	村上中等	179	9	商業	土田謙吾	新潟商業	110
3	数学	石井 隆	高志中等教育	263	10	水産	矢口沙保里	海洋	40
4	理科	小熊好弘	新潟	264	11	家庭	村田しのぶ	長岡大手	131
5	芸術	(音)土田利枝子	十日町	83	12	保健体育	宮田正美	八海	127
		(美)鈴木清子	新潟工業		13	生徒指導	川合克彦	巻	220
		(書)長津綾子	荒川		14	図書館	長谷川正一	塩沢商工	55
6	英語	小林一彦	新潟江南	319	15	視聴覚	平倉政弘	新潟工業	30
7	農業	千葉哲弥	加茂農林	151	16	定通	大島博文	新潟翠江	173

事務局幹事

保坂 哲 (新潟南)	泉田 亮 (新潟)	本田 園子 (新潟中央)
西脇 正和(新潟南)	土田 謙吾(新潟商業)	渡邊 尚紀(新潟南)
近 優子 (新潟南)	小林 信子(新潟南)	佐藤 博美(新潟南)

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

- 第1条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。
- 第2条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。
1. 高等学校教育に関する調査研究
 2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
 3. 会員の研究に対する援助
 4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

- 第4条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。
- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 音楽部会 | 6. 美術工芸書道部会 |
| 7. 英語部会 | 8. 農業部会 | 9. 工業部会 |
| 10. 商業部会 | 11. 水産部会 | 12. 家庭科部会 |
| 13. 保健体育部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

- 第5条 この会は、次の機関をおく。
1. 委員会
 2. 理事会
 3. 部長会
 4. 部会委員会
- 第6条 委員会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。
1. 規約の決定並びに改正に関すること。
 2. 事業計画に関すること。
 3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
 4. 財産および基金の処分に関すること。
 5. 役員決定に関すること。
 6. 他団体への加入脱退に関すること。
 7. この会の解散に関すること。

8. その他必要な事項に関すること。
- 第 7 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、理事会が必要と認めたとき、および半数以上の委員から要求があったとき、会長が招集する。
- 第 8 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。
- 第 9 条 理事会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
1. 委員会から委任された事項の審議執行に関すること。
 2. 委員会に提出する議案に関すること。
 3. 緊急事項の処理に関すること。ただし、次の委員会に承認を得なければならない。
- 第 10 条 理事会は、理事で構成する。理事には、会長・副会長・各部会の部長・副部長および委員会で必要と認めた若干名になる。
- 第 11 条 理事会は必要により会長が招集する。
- 第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。
- 第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。理事の代理は認めない。
- 第 14 条 委員会・理事会・部長会の会議は、構成員の2分の1以上の出席で成立し、多数で決する。
- 可否同数のときは、議長が決める。
- 第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。
- 第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。
1. 専門的事項について調査研究する。
 2. 専門的事項について委員会に提案する。
 3. 専門的事項についての業務を執行する。
- 第 17 条 部長委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。
- 第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。
- 第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

- 第 20 条 この会には、次の役員をおく。
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 各 4 名以内 |
| 5. 理事 | 若干名 | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各 1 名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各 1 名 |
| 11. 顧問 | | | |
- 第 21 条 役員の仕事権限は、次の通りである。
1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。

2. 副部長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第9条により会務を執行する。ただし理事は委員を兼ねることが出来ない。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第6条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条 役員を選出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、委員会で地区を考慮して会員の中から選挙する。
2. その他の理事は、必要により委員会で選挙する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員任期は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第26条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条 この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第7章 附 則

第28条 この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2. 昭和61年6月9日改正施行する。
3. 平成2年6月8日改正施行する。
4. 平成7年5月31日改正施行する。
5. 平成23年6月17日改正施行する。
6. 平成24年6月22日改正施行する。

事務局日誌抄

- 月・日
- 4・1 平成26年度高教研「会員募集文書」などの袋詰め作業および発送、役員推薦について各部会に推薦を依頼
 - 4・10 「高教研年報 第53号」発送
 - 4・14 高教研会計監査委員の派遣依頼発送
 - 4・14 高教研幹事の派遣依頼発送（校外幹事3名宛）
 - 4・15 公益財団法人新潟県教職員厚生財団へ教育・文化活動団体助成事業完了報告書を提出
 - 4・24 高教研理事会の開催についての依頼・案内発送
 - 4・24 会計監査(新潟南高校 応接室)
 - 4・24 幹事会(新潟南高校 応接室)〈理事会の準備・運営について〉
 - 5・15 理事会(新潟南高校 視聴覚教室)〈本誌「理事会記録」参照〉
 - 5・26 高教研部会幹事へ派遣依頼発送
 - 5・29 高教研委員会文書審議の依頼発送(各委員宛)
 - 6・2 新潟県教職員厚生財団より400,000円寄付
 - 6・12 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 新潟支部支部長へ平成26年度事業への助成について依頼
 - 6・19 部会幹事連絡会(新潟南高校 図書館)〈部会経理等について〉
 - 6・27 委員会文書審議の結果発送
 - 6・27 新潟県立図書館協議会委員の委嘱について報告(新潟県教育委員会教育長宛)
 - 7・29 新潟県教育公務員弘済会より200,000円寄付
 - 8・28 平成25年度各部会研究誌送付(高等学校教育課長、県立教育センター所長宛)
 - 8・29 新潟県高等学校教育研究会ホームページ開設
 - 10・31 新潟県教職員厚生財団理事長へ平成26年度事業への助成について依頼
 - 11・20 各部会幹事に平成26年度末「事務処理関係文書」発送
 - 11・26 年会費値上げに係るアンケート実施(各部長宛)
 - 1・26 各部会より事業報告・事業計画(案)、決算報告書、高教研年報の原稿などの到着『高教研年報』第54号の編集作業に着手
 - 3・31 『高教研年報』第54号発行

(文責 幹事・新潟南高等学校 小林信子)

編集後記

平成26年度の高教研の活動状況をまとめた「高教研年報」第54号をお届けします。

今年度は消費税8%の増税から始まり、家計はもとより本会の会計にも大きな影響を与えました。STAP細胞騒動では、一時は世紀の大発見と注目されましたが、様々な研究不正の疑義に見舞われ日本の科学界の信頼を揺るがす事件となりました。一方、小惑星探査機はやぶさ2が太陽系の誕生と生命誕生の秘密に迫るミッションを携えて打ち上げに成功しました。2020年（平成32年）に帰還予定となっており、同年に開催される東京オリンピックとともに日本の技術力・科学力が世界に注目されることを期待しております。

近年私たちを取り巻く社会は、急速な情報化、グローバル化の進展の中にあり、新たに直面する課題に対し自ら深く考え、判断するとともに、他者と協力して行動し課題を解決する資質や能力を備えた人材の育成が求められています。今後、教育現場では課題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッションといった様々な学習活動をとおして生徒の思考を活性化させる、いわゆるアクティブラーニングについて研修が求められることが予想されます。「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろん「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、知識・技能を定着させるうえでも、また、学習意欲を高めるうえでも効果的だと期待されている学習活動であり、中央教育審議会が検討する学習指導要領の全面改訂で、目玉の一つにもなっております。

このような教育課題に対して会員間の情報交換や研修をとおして、教育の専門分野について研究する本会の役割は非常に大きいものがあります。事務局としては、各部会との連携を図るとともに、より魅力ある事業を展開し、会員の減少傾向を止め、増加に転じていけるよう努力していきたいと考えております。会員の皆様には、今年度開設した新潟県高等学校教育研究会ホームページ（<http://www.kokyoken.nein.ed.jp/>）を積極的かつ有効にご活用いただくとともに、未加入の先生方への呼びかけをお願いいたします。

終わりに、この一年間、部会運営等に多大なご尽力をいただきました先生方、並びにご多用にもかかわらず原稿執筆にあたっていただいた先生方に深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様の今後のご活躍を祈念して編集後記とします。

（文責・幹事：新潟南高等学校教頭 保坂 哲）

別紙

新潟県高等学校教育研究会規約（改正案）

第1章 総 則

第1条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第2条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1. 高等学校教育に関する調査研究
2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
3. 会員の研究に対する援助
4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

第4条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 音楽部会 | 6. 美術工芸書道部会 |
| 7. 英語部会 | 8. 農業部会 | 9. 工業部会 |
| 10. 商業部会 | 11. 水産部会 | 12. 家庭科部会 |
| 13. 保健体育部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

第5条 この会は、次の機関をおく。

1. 委員会
2. 理事会
3. 部長会
4. 部会委員会

第6条 委員会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。

1. 規約の決定並びに改正に関すること。

2. 事業計画に関すること。
3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
4. 財産および基金の処分に関すること。
5. 役員の決定に関すること。
6. 他団体への加入脱退に関すること。
7. この会の解散に関すること。
8. その他必要な事項に関すること。

第 7 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、理事会が必要と認めたとき、および半数以上の委員から要求があったとき、会長が招集する。

第 8 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。

第 9 条 理事会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。

1. 委員会から委任された事項の審議執行に関すること。
2. 委員会に提出する議案に関すること。
3. 緊急事項の処理に関すること。ただし、次の委員会に承認を得なければならない。

第 10 条 理事会は、理事で構成する。理事には、会長・副会長・各部会の部長・副部長および委員会で必要と認めた若干名になる。

第 11 条 理事会は必要により会長が招集する。

第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。

第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。理事の代理は認めない。

第 14 条 委員会・理事会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立し、多数で決する。可否同数のときは、議長が決める。

第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。

第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。

1. 専門的事項について調査研究する。
2. 専門的事項について委員会に提案する。
3. 専門的事項についての業務を執行する。

第 17 条 部長委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。

第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。

第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

第 20 条 この会には、次の役員をおく。

1. 会長 1 名
2. 副会長 5 名

- | | | | |
|-----------|-----|------------|-----------|
| 3. 部長 | 各1名 | 4. 副部長 | 各4名以内 |
| 5. 理事 | 若干名 | 6. 委員 | 各校1名 |
| 7. 会計監査委員 | 3名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各1名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各1名 |
11. 顧問

第21条 役員の仕事権限は、次の通りである。

1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2. 副部長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第9条により会務を執行する。ただし理事は委員を兼ねることが出来ない。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第6条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に答ずる。

第22条 役員の出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、委員会地区を考慮して会員の中から選挙する。
2. その他の理事は、必要により委員会で選挙する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員の仕事期間は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。欠員の補充で就任した者の仕事期間は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理

は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第26条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条 この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第7章 附 則

第28条 この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2. 昭和61年6月9日改正施行する。
3. 平成2年6月8日改正施行する。
4. 平成7年5月31日改正施行する。
5. 平成23年 月 日改正施行する。